

茗溪



正月
2026
令和8年
no.1127

目次

- グラビア 01 ~ 02
- 新年のご挨拶 03
- 年頭挨拶 04
- 農林・生物資源学類 50 周年記念イベント 05
- 「相手が喜ぶことを考える」 06 ~ 07
- PeerGarden (茗溪アルバム) 08 ~ 09
- 西川元副理事長追悼 10 ~ 11
- 茗溪会 1 都 4 県共催 講演会報告 12 ~ 13
- 知の提供Ⅱ「材料の強さ—科学と工学—」小史 14 ~ 15
- ここに茗溪人! 16
- 筑波大学入学 50 周年記念同窓会 開催のお知らせ 17
- 著書紹介 18
- 茗溪・東西南北 19
- 桐の葉のつどい 20 ~ 23
- 医薬品・関連業界交流会報告 22
- 追悼録 23 ■ 筑波大学は今 24
- 茗溪学園だより 25 ■ 令和 7 年度秋の叙勲おめでとうございます 26
- 広報 26 ■ 表紙のことば 26 ■ 編集後記 26





安全に、快適に、正確に
大曽根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 一也

☆GOアプリ配車

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO
SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：専務取締役 岡本 俊一

〈昭和56年 第一学群社会学類卒業〉

<https://www.sekisho.co.jp/>

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

■工学部

機械工学科

電気電子情報工学科

応用化学生物学科

■情報学部

情報工学科

情報ネットワーク・コミュニケーション学科

情報メディア学科

情報システム学科

■健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)

管理栄養学科(管理栄養士養成課程)

臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄(S52 理)

林 忠(S58第1自)

吉川 亮(S60第2比)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>



①



②



③



⑤



④



⑥

- ①茗溪会宮城支部 総会・懇親会 R7.11.29
- ②京都茗溪会 参加者の皆さん R7.11.22
- ③かながわ茗溪サテライトの会 ワークショップ R7.11.29
- ④かながわ茗溪サテライトの会 参加者の皆さん R7.11.29
- ⑤茗溪会山形県支部 懇親会 R7.11.22
- ⑥茗溪会山形県支部 新支部長から現支部長へ花束贈呈 R7.11.22

①～④は P19 参照



- ①参加者集合写真
- ②公演に聴き入る
- ③学長挨拶
- ④理事長を囲んで
- ⑤気の合った仲間
- ⑥仲間
- ⑦桐の葉



2026年を迎えて

一般社団法人 茗溪会

理事長 井口 武雄



明けましておめでとうございます。

茗溪会会員の皆様が明るく爽やかに新しい年をお迎えになりましたこととお慶びを申し上げます。

あわせて会員とご家族の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

引き続き茗溪会の役員及び事務局員一同力を合わせて「明るく元気に語り合える茗溪会」の進展に努力を重ねてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

昨年は国の内外におきまして大きな動きが起きました。経済などの混乱などにより会員の皆様の生活やお仕事に

も影響が生じるとともに先の予測が困難になり不安を感じることもあったことと思います。

このような情勢の中ではありますが茗溪会が揺るがされることはありません。

昨年四月から会費を五千円に上げさせていただきました。会員の皆様のご理解とご協力をいただきまして大きな混乱が生じることなく実施できましたことに心からお礼を申し上げます。この値上げによりまして会費会計の深刻な事態は少し和らぎましたがなお安心できる状態でないことは機会あるごとに申し上げた通りであります。従って引き続き会の運営にかかわるコストの見直しに努めていかなければなりません。加えてより多くの会員の皆様に会費をお支払いいただかなければならない事情に変わりはありません。会費をお支払いいただいている会員の方が20人に1人前後という実情では決して会員のための健全な組織とは言えないのではないのでしょうか。

茗溪創基百五十周年の記念として計画した事業は一昨年成功の裡に全て終了いたしました。役員の皆様と企画・実行に携わっていただいた関係の会員・事務局員の皆様のご尽力のお陰でございます。改めてお礼を申し上げます。

茗溪会にとって次の記念すべき年は二〇三二年に訪れます。この年は茗溪会創立一五〇周年にあたります。それに向けて何を行うかを検討するために執行部会の中に「周年事業委員会」を設けて検討し基本計画を立てることに致しました。この基本計画が出来上がりましたところで「茗溪会創立記念事業実行委員会」を立ち上げ企画・実施案を作成してまいります。六年後に迎える創立一五〇周年を会員の皆様全員で祝い新たな出発が出来ますようにと努力をいたしてまいります。

会員数の減少も大きな課題であることに変わりはありません。現在事務局が中心になって新会員の増加に向けての取り組みを行い成果が上がっています。大変ありがたいことでございます。この取り組みに加えて筑波大学の卒業生に魅力を感じていただける茗溪会創りが必要であります。この魅力をどのように作るのかも創立一五〇周年に向けての大きなテーマとなります。いずれこのテーマへの取り組みを開始する必要がありますと考えております。

筑波大学との関係においてもいくつかの絆を作ることによって強くなっています。以前から行っている大学院・芸術部門の茗溪会賞の提供、学生の文化活動と地域活動に対する助成、学生と卒業生が面談してキャリアを磨くと

ともに卒業後の就職等についても語り合う「OB・OGキャリアカフェ」、オンラインで学生と卒業生がなんでも語り合える「ぶっちゃけ相談会」に加えて新しく卒業祝賀会への助成を行うことに致しました。今後も大学は勿論地域との絆も増やし強めてまいります。

教育界以外で活躍している会員の皆様の情報交換や協力を行う場である「茗溪・筑波産業人倶楽部」(旧名称)の活動も軌道に乗っております。異業種の皆様の交流は産業界で働く会員にとって何よりの力を生むものであります。この交流を促進する会が地区の茗溪会にも生まれていることに加え創設をご検討の地区も生まれておりますことは地区茗溪会に新たな力をもたらすと信じております。教育界を目指す学生に対する研修などの支援活動もしっかりと行っております。

地区茗溪会との交流も活発になっていくことはありがたいことです。引き続き地区茗溪会の総会などに理事が伺いすることなどをしてより強い絆を作り活発な交流を進めてまいります。

結びに今年が会員の皆様にとりまして幸多い年になりますよう重ねてお祈りを致し新年のご挨拶と致します。

筑波大学長年頭挨拶

筑波大学長 永田 恭介



明けましておめでとうございます。
旧年中は、茗溪会の皆様には様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

一昨年12月に学術と社会の発展のための次世代型研究組織として、世界最高水準の研究成果を持続的に生み出すとともに、新しい研究を創生する研究環境を構築することにより、世界における知のフロンティアの開拓と新たな価値創造に貢献することを目的として、高等研究院を設置いたしました。強みのある分野をさらに伸ばし世界最高水準の研究を推進する駆動力としての機能（トップダウン型マネジメント）と所属する研究者の繋がりにより学際研究が自発的に生まれる機能（ネットワーク型マネジメント）が最大限に発揮できるよう昨年8月にキックオフ会を開催するなど様々な取組を行っております。



▲高等研究院キックオフ会の様子

また、昨年4月には、研究情報の収集・分析を基盤に統合IR機構の活動を活性化させるとともに、全学的なDX戦略を策定・実施し、業務DXを強力に推進することを目的として、新たに情報マネジメント担当副学長を配置し、その下に、情報マネジメント室を設置しました。

産官学金の協働に向けた新しい取組として、一昨年8月に三井住友フィナンシャルグループとの間で包括連携協定を締結しました。産学連携教育研究、キャッシュレス化、スタートアップ・ベンチャー、不動産、スポーツなど9種類のテーマに基づいて様々な取組を進めているところです。昨年8月に本学中央体育館で開催した筑波大学ホー



▲「TSUKUBA LIVE!」 Presented BY SMBC

ムゲーム「TSUKUBA LIVE!」では、SMBC TOKYO SOLUAと本学女子バスケットボール部が対戦いたしました。今後も三井住友フィナンシャルグループとの連携した取組にご期待いただきたいと思っています。

昨年9月に関彰商事株式会社とともに野球・ソフトボールを中心としたアスリートの競技力向上を目的として「Invictus athlete Performance Center (IPC)」が開所いたしました。IPCは、最先端のスポーツアナリティクス機器を備え、選手の動作を科学的に解析し、データに基づいた指導を実現する国内有数の施設であり、スポーツの知の拠点として、学内での利用やアスリートのパフォーマンス改善、更に地域への貢献など様々な活用が期待されます。昨年10月からは野球スクールを開講し、技術指導のみならず、運動能力向上プログラムや段位認定制度を導入し、「うまくなった!」を実感できる「スクールを目指しています」。



▲IPCの竣工開所式

ーストイヤーセミナー、英語、情報リテラシーや、基礎生物学実験、分子細胞生物学概論、遺伝学概論など1年生の必修科目のほか、様々な科目を意欲的に履修されました。基礎生物学実験の授業では、グループ別での実験やキャンパスの豊かな自然を活用したフィールド調査などが行われております。

また、筑波大学では例年、スポーツ・デーや宿舍祭、雙峰祭といった学生主体のイベントが数多く開催されていますが、そうしたイベントにも熱心に参加されています。スポーツ・デーでは、生物学類のご友人たちとともにドッジボールの競技に参加され、楽しまれました。宿舍祭では、ご友人たちとともにベビーカーを販売する模擬店に参加され、協力して販売にあたられました。こうした活動を通して、学類のクラスとは異なるご友人もでき、交友やご活動の幅が広がられています。悠仁親王殿下をはじめとする本学の学生たちが、私たちの直面する地球規模課題に立ち向かうことができる国際的な視野と実践力を備えた人材として羽ばたけるような環境整備や体制強化の取組を、今後も力強く続けていきます。

本学はこれからも社会の要請の一步先を見据え、「冒険する大学」として未来創造に挑戦してまいります。伝統ある貴会と同窓生諸兄姉には、ますますのご発展を祈念申し上げますとともに、本学の様々な活動にご理解をいただき、本年も引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

農林・生物資源学類50周年記念イベント開催報告

小林 幹 佳

(生物資源(旧農林)学類1995年卒)

2025年9月27日(土)、筑波大学学生会館にて、農林・生物資源学類50周年記念イベントが盛大に開催されました。まず、津村義彦様(筑波大学名誉教授)、氏家清和様(筑波大学)、山下政克様(愛媛大学副学長)、西川綾子様(水戸市植物公園園長)からご講演をいただきました。続くパネルディスカッションでは、山下様、西川様に加え、徳永澄憲様(麗澤大学学長)、伊佐早禎則様(三菱ガス化学代表取締役社長)、小西武様(みらい建設工業前会長)にご登壇いただきました。茗溪の先輩方からの講演、さらに参加者を交えたパネルディスカッションでは、ともに興味深い話題と議論が展開され、学類の半世紀にわたる歩みと次の50年に向けた展望を考える貴重な機会となりました。その後の交流会では、思ひ出話に花が咲くとともに、学類に対する率直な意見を伺うことができました。

講演者・パネリストからの重要な提言

社会で求められる人材像について具体的な提言をいただきました。

第一に、「臨機応変に対応する力」の必要性です。これは単なる柔軟性ではなく、確かな基礎学力に裏打ちされた

判断力と、状況を大局的に捉えて何が最も重要かを見極める能力と捉えることができます。

第二に、「グローバルな課題を地域の現場から考える視点」の重要性です。地球規模の課題に対峙する際も、足元の現場に根ざした実践的なアプローチが不可欠であるという認識です。第三に、専門知識を社会に還元し、多様な人々と協働するための「人間力とコミュニケーション能力」がますます重要になるとの見解です。

実践的な行動指針として、「小さなことをやり遂げる」積み重ねの大切さが説かれました。学類に対する期待として、「DXへの対応」や異分野間の「連携・統合をけん引する姿勢」が挙げられました。

若い世代への期待

若い世代に対する期待とともに「失敗を恐れて最短の道を選ぶ」とする傾向「への懸念も示されました。効率性の時代だからこそ、遠回りとも思える道程から得られる経験の価値が指摘されました。真の成長と創造は、試行錯誤を含む多様な経験から生まれます。困難を乗り越える過程で培われる忍耐力、問題解決能力、人間としての深みが、将来の大きな財産になります。教育機関として本学類が、知識の習得に加え、困難に立ち向かう力と人間性を育む場であることが再確認されました。

教育理念の妥当性確認

臨機応変に対応するための確かな基

礎学力と思考力、多様な価値観を尊重する姿勢は、本学類が半世紀にわたって育成を目指してきた人材像と重なるように思えました。この認識は、本学類の教育理念と実践が時代を超えて有効であることを証明し、今後の教育研究活動に対する確信を深める結果となりました。

同窓生ネットワークの深化と今後への課題

今回のイベントは、同窓生間のネットワークの重要性を改めて考える契機となりました。多様な分野で活躍される同窓生との交流を通じて、世代や職種を超えた連携の可能性が再確認されたように思います。一方、イベント後の自由意見からは改善すべき課題も明らかになりました。参加者数が期待よりも少なかった点、若手・現役学生の参加が限定的だった点、イベント開催の周知が不足した点などが指摘されました。また、パネルディスカッションで示された教員数の大幅減少への懸念も多く寄せられました。

今後の展望

自由意見では他にも、こういったイベントの定期開催(5年または10年ごと)、情報共有基盤の整備、学生との連携強化(キャリア支援、企業説明会)、使途明確な教育研究支援などの提案が寄せられました。気候変動、食糧安全保障、環境・健康・食といったテーマへの関心も示されました。運営面では、茗溪会との連携、オンライン配信、東

京開催、世代別交流などが提案されました。今後は、知見と経験を共有し、世代を超えたメンタリングを通じて、農林・生物資源学類コミュニティの発展が期待されます。

結び

講演者・パネリスト、参加者、実行委員の皆様深く感謝申し上げます。今後とも、生物資源(旧農林)学類の教育研究活動へのご支援をお願い申し上げます。次の50年やその先に向けて、社会に貢献できる人材の育成と、持続可能な社会の実現に向けた研究活動、これらを支える同窓活動に努めて参ります。なお、当日のプログラムは以下のURLよりご確認いただけます。

<https://www.bres.isukuba.ac.jp/norin-shigen-50/>



相手が喜ぶことを考える

株式会社ひとまいる(旧・株式会社
カクヤスグループ)取締役会長

佐藤 順 一

(1981年第一学群社会学類卒業)

1 君がこれを一人で運んでみる!

入れ込むと、とことんやる性格です。私が筑波大に在学した70年代後半、大学の周囲には今よりも遊ぶ場所が少なく、私は「時間を持て余すくらいなら」とウエイトリフティングのクラブに入りました。体育会でなくサークルです。ところが2年の夏、全日本パワールフティング協会の理事をされていた先生が顧問にいらして「鍛えるぞ!」と言います。私は「そこまで考えてなかったけどな」と思いつつも入れ込み始めました。練習量は自信につながります。仲間が次第に脱落し、40人が10数人に減っても、私は週6回の練習を続けました。

すると、運動は苦手と思い込んでいた私が、4年の秋、関東大学選手権バントム級で優勝を飾ることができたのです。

この経験が家業を継いでから活きました。当時、カクヤスの社員は16名。私が入社したのは81年で、バブル前夜の好景気を受け人手不足でした。だからみんな「息子が入ってきたんだからやってみな」とばかりにいろんな仕事を振ってきます。まず、朝5時から2時間ほどかけ、飲食店さんからのご注文が吹き込まれた留守番電話を聞いて伝票を作ります。その後、商品を車

に詰め込んで夕方まで配達、帰ってくると集めた空き瓶を下ろし、食事とお風呂の後で集金に行きます。

そんな中、社員が私を試したのです。ある朝、配達に行こうとしたら、普段は2〜3人で乗るトラックが残っていて私の他には誰もいません。労働環境に不満がある社員が結託し「これを1人で運んでみる!」というわけです。しかし私は体力に自信があった上、やる時は入れ込んでやる性格です。1人で配達を始め、いつも雑談を交わす客先も「今日は時間がないから」と失礼し、夕方、涼しい顔で会社に戻りました。

すると翌日から変化があったのです。言い出しついでであらう、最も不満を持っていたはずの人物が、一切不平を言わなくなりました。その後、彼は積極的に仲間をまとめ「皆で頑張ろう!」という姿勢を表に出します。しかも後年、彼は私の右腕と言うべき存在になってくれたのです。赤字の地域があるのと彼に再建を依頼し、彼も結果を出すということが何度もありました。

当社が2019年に上場した後、既に定年退職していた当時の仲間と卓を囲んだことがあります。言い出しつべだった彼は「上場って凄い! あなただからできたんだ」と褒めてくれました。そして昔と同じ笑顔で「でも俺たちがいたことも忘れないでほしいな」と言います。

誰が忘れるでしょうか。私から見れば逆に、彼らがいなかったらこそ上場できたのです。筑波大の毎日と若い日の苦労はこんなふうには、私を大きく成長させてくれました。

2 見積りを回収してきなさい!

私は何かやる時「最初からコストや会社の都合を考えるとサービスがつまらなくなる」と思っています。つまらないものは人を惹きつけず、印象に残りません。何かやるなら、みんなにとって面白いことをすべきだと思うのです。

私は配達を4年半続けた後、飲食店さんとの取引を増やすべく営業に出ました。例の一件の後、新規採用を行い、皆の給料を3万円上げると会社が赤字になってしまったのです。「何も赤字になるまで」と思われるかもしれませんが、これくらい思い切った方が誠意は伝わります。

この頃から私は、商売の匂いをかぎわけ、まずは自分の勘を信じてやってみよう! と考えていました。

時はバブル前期。営業は私1人だけなので東京中をまわるわけにはいきません。そこで私は「今、活性化している街はここだ!」と六本木に張り付きました。商談だけでなく、時にお酒も飲んで人間関係を築き、お取引をお願いするのでした。

しかし現実には思い通りにいきません。酒販業界は組合が強く、有名店に営業すると、翌日には父から「〇〇さんのお客さんに手を出したな! 見積りを回収してこい」と怒られます。ならばと私は作戦を変え、オーブン前の新店を狙って営業をかけました。すると徐々に売り上げが伸び始めます。

ところが成長を続けたのは数年のことで、90年代に入るとバブルが崩壊し、景気がよい時期に出店した飲食店が閉業に追い込まれていきます。社員に「専

務が開拓したお店からなくなっていくますね」と言われてしまうような状態になる中、私は次の戦略に思い至りました。

「今後はデイスカウンドだ!」と考えたのです。父は「俺はお酒の組合の役員だぞ。安売りはできん!」と言いますし、出店費用も工面できません。でも半年粘って出店すると、初日から駐車場の交通整理が必要ほど繁盛しました。

しかし、今回も数年しか続きません。当時、酒類販売業免許は同じ地域に競合店があると取得できない、といったルールがあつて酒屋は守られていたのですが、2003年からは免許の新規付与が原則自由になり、大手スーパーも酒類販売が可能になると決まったのです。価格交渉力はスーパーのほうが上。このままではじり貧になってしまいます。

3 よくあんな決断をしたものだ

私が会長になった時、現社長から「後ろを振り返ったことがありますか?」と聞かれました。彼は感慨深げに「狭い一本道を上手に歩いてきましたよね」と言います。私も「本当にそうだな」と感じました。

大手との戦いを避けるため、私は「レアなお酒の専門店にしようかな」などと様々な方向性を検討しましたが、結局「これが活路だ」と選んだのは、酒屋の特徴、「お届け」を活かす道でした。当時、スーパーの多くは配達までしていませんでした。そこで規制緩和までに、生き残りを賭け、どこにも負けないほどお届けに磨きをかけようと考えました。

事業には、お客様から見た時のわかりやすさも重要です。そこで東京23区全域をカバーし、ご注文を頂いたら2時間枠（現在は1時間枠）で当日配達を実現すると決めました。今思えばよくあんな決断をしたものです。1つの店の宅配範囲は1.2km。23区の面積で計算すると137店舗が必要。そこで当社は既存の30店舗に加え100店舗以上出店したのです。

結果としてこれが『ひとまいる』へと至る細い道だったのですが、当時はわかりません。特に厳しかったのは、店を出しても赤字が続いたこと。次第に理由がわかってきました。ディスカウントストアは価格勝負で他店と比較しやすいから、出店して半年も経てば黒字になったのです。しかし配達は一度使って「便利！」とならないと使ってもらえず、黒字になるまでに時間がかかりました。

一方、数字を見ると飲食店さんが使ってくれていることもわかりました。当時は前日発注が当たり前でしたが、当日持つてきてくれるなら急に大人数の予約が入っても対応できますし、「雨だから仕入れは少なめ」といった判断もできます。

元理系として、数字は本当に大事だと感じます。私は最初、ご家庭へのお届けを中心に考えていたのですが、この状況を捉え、すぐ飲食店さんへのお届けにも注力したのです。するとまた間でした。

4 ソムリエのユニフォームでお届け！

私は、商売の根本にあるのは「人を

喜ばせたい」という思いなのだと考えています。その後、ある方の悩みを解決して、サービスはさらに進化しました。銀座の高級店のオーナーが、毎日細かく在庫を確認していて、理由を聞くと「高いお酒が盗難に遭う」と言います。聞いてすぐひらめきました。お店は在庫を抱えず、お客さんから高いお酒を頼まれたらすぐお電話でカクヤスにご注文頂き、我々がパッと届けられよいのです。試しに銀座7丁目に出店し、銀座7・8丁目の飲食店さん向けに注文10分以内にソムリエのユニフォームでお届けするサービスを始めたところ大受けしました。盗難の心配がなく、在庫も抱えずに済むのです。

また、送料も無料にしています。宅配サービスを始めた当初は300円頂いていましたが、ある時「無料にできないかな」と、お店で売る時の経費と配達にかかる経費を綿密に計算して比べたら、さほど変わらなかったのです。

1本から無料にしたのは、わかりやすさを狙ったから。といっても平均1万円ほど頼まれるので赤字にはなりません。実は、毎日のお水を1本だけ頼まれるお客様もいらつしやいました。しかし彼女はきっと、カクヤスの配達員と話すのが楽しかったんです。酒屋としてこうした触れ合いを忘れてはいけませんので、そこだけ見れば赤字でしたが、何も変えませんでした。

喜ばせるのはお客様だけではなく、社員にも仕事を楽しくしてもらえ、新しいアイデアも試せるよう、前向きな挑戦であれば結果は問わないようにしています。

すると、現場から面白い提案が出てきます。例えば当社は24年から、使用済みの揚げ物油を回収し、リサイクルする取組みを始めています。酒屋は昔から空瓶を回収してきたので、配達のついでに何かを持って帰ってくるのが得意なのです。そこで24年6月にペットボトルや一斗缶に入れた廃食用油の回収を始めると、翌年7月までの間に268トン、すべて飛行機の燃料にリサイクルしたら東京からハワイまでを往復できる量の油を回収できました。

5 ラストワンマイルを巡る挑戦

その後、当社はロジスティクスにも磨きをかけ続けました。例えば17年には東京・平和島に大きな倉庫を立ち上げています。倉庫があれば大量仕入れが可能になり、自社の店舗に商品を一元化して運ぶことができます。効率化によって流通コストを抑えたのです。

そんな中、再び、大きな決断をする時がやってきました。

流通業界では「ラストワンマイル」をどう効率化するかが議論されていますが、当社はむしろここが得意です。次第に私はこの配送プラットフォームを持つことが当社の絶対的な強みだと気づきました。

そこで「ひとまいる構想」を立ち上げました。当社の配送プラットフォームで他社様の荷物も運ぶのです。荷物が少ない時間帯もあり、全体をならすと約3割はあいています。回収も可能なので、クリーニングは相性がいいかもしれません。飲食店さんのユニフォームを集め、洗ったものを届けるのです。何かを修理するものもいいかもしれません。情報を運ぶ、ということも

あっていいはず、保険のセールスにもご活用いただけるかもしれません。面白くないですか？

そこで当社は25年7月にカクヤスグループの社名を「株式会社ひとまいる」に変更しました。ラストワンマイルと、人が何うことをかけた社名です。誤解なきようお願いすると、お店は「なんでも酒やカクヤス」のままですが、一方で「当社は物流に注力します」と内外に宣言したわけです。

さて、何が起るのか……私にはまだわかりません。さっそくご相談を多数頂いていますが、今回も私たちは事業を走らせながら将来の姿を見つけていきます。

商売は思い通りにはいきません。しかし私は「だからこそ面白い」と感じるので。そして創業104年を迎えた当社の歴史は、一軒の酒屋が、まだ見ぬ未来を楽しみに変わり続けてきた歴史だったのかな、とも思うのです。皆様もぜひ、これからの「ひとまいる」にご期待ください。



2019年12月23日に東京証券取引所に株式を上場

茗溪創基150年記念事業

[illegible]

東京文理科大学は、東京高等師範学校の専攻科を大学に昇格したもので、東京高師は附置の扱いとされた。不全ながらも、茗溪人は「必成」と快哉した。



●第一臨教―設置科と入学

「必成」の年、昭和4年度の「入学者及志願者」は、「師範学校卒・中学校卒・その他」に分類されているので、それに従うと、左記の表となる。

科	卒業	入学者	志願者	入学率
数 学	師範	2	12	16.7%
	中学	27	301	9.0%
	其他	1	29	3.4%
	小計	30	342	8.8%
歴史地理	師範	2	27	7.4%
	中学	22	228	9.6%
	其他	2	27	7.4%
	小計	26	282	9.2%
体 操	師範	7	17	41.2%
	中学	23	163	14.1%
	其他	1	18	5.6%
	小計	31	198	15.7%
全 体 計		87	822	10.6%

「本所諸規則」第9条に、「入学試験ハ筆記若ハ口頭ニヨリ之ヲ行フ」と記されている。

数学科の受験科目は、「国語漢文、英語、数学（算術・代数・幾何・三角法）、物理及化学、試問」である。

表で見る通り、昭和4年度「第一臨教」の入試は難関であったが、これは当該年度に限ったことではなく、他年度も同様の傾向のようである。

「本所諸規則」第6条に明記されている「定員」は、国語漢文科(80名)、英語科(40名)、数学科(80名)、博物科(30名)、物理化学科(30名)、歴史地理科(35名)、体操科(40名)、計335名となるが、これは、各年度の入学定員ではなく、全在籍の定員ということだろうか。

●第一臨教―授業料免除と給費制

昭和4年の「臨時教員養成所規程」第17条に、「臨時教員養成所ニ於テハ授業料を徴収セス」とあり、第19条に「特別ノ必要アリト認メタルトキハ生徒ニ学資ヲ補助スルコトアルヘシ」と明記されている。これを受けて、「本所諸規則」第11条は、「生徒中或ル数ヲ限リ給費生トシ年額参百圓ヲ支給ス」とあり、細則第一条「学資ハ地方長官ノ推薦書ニ基キ学力履歴等ヲ審査シ相当ト認メラルモノニ対シ之ヲ支給ス」とある。

「授業料免除と学資補助・支給（給与）」は官費による。また、文理大や高師の教師陣による第一臨教の兼務といった受給の問題もある。このような条件を脱みながらの定員の策定かと思われる。

入学者数と給費生数 昭和2年度～昭和6年度

	入学年等	昭和2	昭和3	昭和4	昭和5	昭和6	小計
国語漢文	給費生数	14	0	0	0	0	14
	入学者数	30	0	0	0	0	30
英 語	給費生数	12	0	0	0	0	12
	入学者数	30	28	0	0	0	58
歴史地理	給費生数	0	12	14	0	0	26
	入学者数	0	27	26	0	0	53
数 学	給費生数	13	0	14	0	0	27
	入学者数	32	0	30	0	0	62
物理化学	給費生数	0	13	0	0	0	13
	入学者数	0	26	0	0	0	26
博 物	給費生数	7	0	0	13	0	20
	入学者数	16	0	0	17	0	33
体 操	給費生数	0	10	14	13	0	37
	入学者数	0	23	31	25	0	79
小 計	給費生数	46	35	42	26	0	149
	入学者数	108	104	87	42	0	341

昭和4年度と6年度の「一覧」から算出した。但し、体操科は、修業年限が2カ年であることに留意。

昭和18年の「本所諸規則」第28条は、「生徒ニハ学資ヲ給与ス」と、「補助・支給」から「給与」へと言辞を変え、在籍生全員を対象にしている。

宮本昇の長女直美さんは、「父は給費生でした」と言っていた。帝都高速度交通営団上級職を父に持つ子が該当するかと不可解に思ったが、昭和19年度入学生は、全員が「給与」対象者なのであった。

●第一臨教―開設と廃止

ところで、昭和18年度『東京第一臨時教員養成所一覧』は、「元第一臨時教員養成所」の卒業生数として、10年間（大正13～昭和8年度）を計上していた。

東京第一臨教は、昭和5年に閉所し、その後、「本所ハ昭和15年三月文部省告示第二百五十六号ヲ以テ東京文理科大学内ニ東京臨時教員養成所トシテ之ニ数学科ヲ置カレ」と「沿革略」が記すように、10年程の空白を経て再開した。

以上を整理すると、東京第一臨教は、大正11（1922）年に「第一臨時教員養成所」として開設され、昭和5（1930）年に一旦閉所（募集停止）している。その後、昭和15（1940）年に、「東京臨時教員養成所」として再開し、昭和18（1943）年に、「東京第一臨時教員養成所」と名称変更し、昭和24（1949）年の廃所まで、養成事業を続けたということがわかる。

昭和5年、この年以降、東京第一臨教は、なぜ閉所したのだろう。
*文中では、敬称を略させていただいた部分もございます。ご容赦ください。

思い出の品々の寄贈（お願い）

茗溪創基150年記念事業

「茗溪創基150年記念事業」への参加のあり方として、「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

1. ご寄贈いただく「思い出の品々」について

- ・「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
- ・ご提供頂く場合、「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。

2. 送り先

- ・電子資料は、メールにて（peer@meikei.or.jp）までお送りください。
- ・郵送先は、「茗溪会大塚事務所」宛てに願います。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館内（電話 03-3941-0136）

追悼 西川 潔氏



西川 潔氏 ご逝去

筑波大学名誉教授・茗溪会元副理事長の西川潔氏が2025年3月25日、享年78歳にてご逝去されました。

西川 潔氏 略歴

1969年東京教育大学教育学部
芸術学科構成専攻卒
1971年同大学院教育学研究科修了
1987年筑波大学助教授
1995年同教授
2002年同芸術学系長を経て
2004～09年芸術専門学群長
2003～05・2010～13年

ブライトン大学客員教授
2009～11年筑波大学副学長
専門は視覚伝達デザイン
日本デザイン学会理事、基礎デザイン
学会理事を歴任
著書に『ヨーロッパ伝統の看板』、『英国
のビレッジサイン』、『サイン計画デザイ
ンマニュアル』、『屋外広告の知識』他

西川潔氏は茗溪会では2012～18
年の間、副理事長として尽力されまし
た。また、長年、季刊誌『茗溪』表紙
デザインを担当され茗溪会会員の目を
楽しませて頂きました。
更に、『茗溪創基150年記念誌』の装丁
も担当されました。



季刊誌『茗溪』1077号(2013年春号)では西川潔氏「新しい季刊誌『茗溪』表紙デザインにあたって」と題し取組みを語っておられます。「長年、馴染んで来た紫色の本誌表紙を、新体制の刷新にあわせて、変えることになりました。」

ご存知のように、これまでの表紙は茗溪会及び大学のシンボルカラーである紫と、桐の文様、並びに茗溪に因む水を、和のテイストで構成したものです。この度の刷新では、イメージを全会

員、関係者に伝えるために、まず刷色を4色のカラーに変え、かつ毎号表紙の写真を変えたいと思います。

具体的な情報を届ける重要なスペースとして、写真部分を活用すべきと考えました。各地の活動を端的に示すものや、偉大な会員の肖像シリーズ、学生の活躍スナップなどアイディアは尽きません。読者や学生も参加できる季刊誌になればと願っています。



改訂第一弾は、本号はキャンパス内に位置する追越学生宿舎です。芽吹き
の春や紅葉の秋を思いつつ、小生が色彩
計画をしたものです。

学生宿舎は現在リニューアルの第三期に入り、それにあわせて外装も順次
新しくしています。管理はもちろん一
般財団法人筑波学都資金財団がしてお
ります。これを機に会員の皆様と共に
茗溪会誌の拡充に微力ながら協力でき
ればと考えております。」

この西川氏の願いを込めた表紙の基
本コンセプトは、現在に継承されてい
ます。

また、季刊誌『茗溪』(2013年夏
1078号)以降の表紙を飾る茗溪創
基150年記念のシンボルマークもデザイ
ンされました。



追悼 元副理事長 西川 潔氏

阿江 通良
(教大体S48、筑大博S57)
茗溪会副理事長

最近では、知に傾いて、ややもすると忘れがちになる人間の技芸に関する教育や研究を行う体育専門学群と芸術専門学群を有するのは筑波大学の特徴の1つである。この2つの学群長室、副学群長室は体芸棟の2階の端に並んで配置されている。このような配置的關係も手伝ってか、一見すると、相容れないような両学群であるが、実は仲が良く、様々な形で副学群長室(小会議室の機能を有するためか)を貸し借りするなど、それなりに交流が盛んである。

私が、西川先生と直接お話したのは、体育専門学群の副学群長になった2002年度初めの学群長・副学群長の顔見世の席であったと記憶している。それぞれが挨拶し、自己紹介と短いコメントや抱負などを述べ、意見交換するというものであった。この時、私も少

しお話したが、西川先生は何か不愛想で、私に対しては一言も発せられず、何も反応がなかったので無視されたとの記憶が残っている。失礼なことを言った記憶がないので、何らかの理由で西川先生のご機嫌が悪かったのか、芸術家のためか? とにかく、「この先生は怖い、不愛想だ」という印象が強烈に残った。当時の体育の高橋学群長、芸術の玉川副学群長とは正反対の印象であった。しかし、そうこうするうちに、この印象は勘違いであったことがわかるのである。

現在も形式や表現を変えて残っていると思われるが、2005年当時から大学の方針で学群の教育スタンダードを制定することになり、各学群で盛んに意見交換や検討が行われたことがあった。体育専門学群は比較的対応が早かったが、芸術専門学群の様子を横で見ていると、少し難航しているようであった。あるとき、西川先生に状況を伺うと(幸い、このころには、西川先生とも気さくに話ができるようになっていた)、「芸術は型にはめたり、スタンダードなどをつくると、もう終わり。」と呟かれた。芸術家としての西川先生の確固たる想い・信念を垣間見た次第であった。

私は兵庫県西脇市の出身である。陸上競技、特に駅伝ファンには高校駅伝強豪校の西脇工業高校の所在地として知られている。すでに他界した祖父母や父母によると、昔は綿織物の生産地として栄えて景気がよく、「ガチャマン」といって機械り機がガチャという

と1万円儲かったというが、今はそのようなことはない。しかし西脇市出身の著名人は多く、最近では経団連前会長の十倉雅和氏(小学校時代の野球・ソフトボール仲間、高校までは同期)や、奇才の異人として知られる芸術家・デザイナーの横尾忠則氏がすぐに思い浮かぶ。なお、愛すべき故郷の西脇市には、「ガチャマン」時代の面影がいくつも残っており、横尾忠則氏の画にも描かれている。

この横尾忠則氏と西川先生との関係で思い出すことがある。2008年ごろには、西川先生とは気楽に雑談もできるようになっていたこともあって、何かの折に横尾忠則氏が私の故郷の有名人であると話したことがあった。そのとき、意外にも西川先生から(本当かは不明だが)「横尾忠則さんは私の好きなデザイナーで、作品のポスターを持っている。同じものがいくつあるのか、今度、差し上げましょう」と言われた。後日、ポスター(かなりの大判)をいただいたが、正直言って、私には何が描かれているかわからないものであった。それでも、ものすごい迫力に圧倒されたこともあって、私が体育専門学群長を退任するときまで学群長室に飾っておいた。

このような西川先生の気配りはその後多々あった。また、茗溪会理事会終了後にはお茶の水あたりまで一緒にさせていただき、楽しくお話させていただいたことを懐かしく思い出す。今、私の中には、初めてお会いしたころの冷たい西川先生はなく、(失礼ながら)

風貌とは大きく異なる、大変にやさしく、柔らかな眼差しで西川先生がいるのである。

ご冥福をお祈りする。

西川 潔 元副理事長を悼む

柴田 淳

(元茗溪学園校長、筑大修S56)
茗溪会理事

西川潔先生は、茗溪学園の理事(評議員兼任)を2013年から2019年までの6年間お引き受けくださいました。この時期は、30周年(2009年)事業で掲げた諸事業を進行させていました。それは、30年間で築いてきた伝統となりつつある学校の諸活動を、さらに発展させる「継承胚胎」の時というスローガンのもと進められていました。その中で理事と教職員の共同事業として、

- ① VI (Visual Identity)
- ② IB (International Baccalaureate)
- ③ OB (Old Boys & girls)

と命名された3つのプロジェクトが立ち上げられていました。

そのVIプロジェクトを担ってくださったのが西川先生でした。と言うよりも西川先生が理事に就いてくださったので、このVIが動き出しました。このプロジェクトで新しく作られたもの、あるいは新しく生まれ変わったものは、校章、スクールロゴ文字デザイン

ン、スクールカラー、スクールモットー、スクールパンフレット、ホームページ制作などでした。

校章は、茗溪の流れを汲む「五三の桐」でしたが、西川先生がデザインされた、筑波大学と同じデザインの「五三の桐」が使用できるようになりました(当時西川先生は筑波大学副学長の要職にありましたので、お力添えがあり許可されたものです)。そして、スクールカラーは「茗溪ブルー」と命名され、明確に統一され登録されました。学校名の表記も、デザインされた字体に決められました。スクールパンフレットは、写真を大きく配置し生徒の生き生きとした活動を際立たせるビジュアルなものが創られました。そしてそこに、新しいスクールモットー「Melting・making the Difference」が載るようになりました。(本誌「裏表紙」参照)

これらのことは、西川先生の指導を受けた筑波大学卒の専門の方々が加わってくださったおかげで、スピーディに進みました。節目節目で西川先生も足を運んでくださり、ご助言をいただきましたので、本当に良いものを完成させることができました。

2015年4月から新しい校章などの使用が始まり、いたるところに茗溪学園の校章、ロゴが飾られるようになりました。このVIプロジェクトにより、本校のイメージは、より明確に見える人たちに伝わっているのではないかと思っています。西川先生のご尽力に心から感謝している次第です。ご冥福をお祈り申し上げます。

1都4県共催 講演会・懇親会

茗溪会1都4県（東京・茨城・埼玉・千葉・神奈川県）初の共同開催による講演会・懇親会が令和7年11月30日（日）に実施されました。講演会・懇親会は、昨年までは東京茗溪会の総会・講演会・懇親会の三部構成の中で行われてきましたが、大変素晴らしい講演であり、広域連携して多くの茗溪会員の皆様に聞いていただき、より一層の親睦を深めるとの方針で、今年から1都4県の茗溪会共催となりました。参加者は来賓、講演者を含めて61名となり、1都4県のみならず、愛知、大阪からの参加もありました。

第1部「講演会」

講演会は、東京茗溪会の高橋基之会長（茗溪会常務理事）の主催者挨拶で始まりしました。来賓として筑波大学永田恭介学長が多忙なスケジュールの合間を縫ってお越しになり、ご挨拶くださいました。体育・スポーツを高等教育・研究の一環として位置付ける体育・スポーツ憲章の制定、生命環境学群生物学類に入学された悠仁親王殿下のご様子、9月に2期生を迎えたマレーシア校、同窓会等のネットワーキ化、次の50年に向けた構想など、多方面に渡る筑波大学の近況が紹介されました。



今回の講演者は、三段跳日本記録39年間の保持者である山下訓史氏（体育専門学群1986年卒業）でした。演題「親子でオリンピック出場『挑戦は世代を超えて』」三段跳が結んだ縁」がスクリーンに示されると、元NHKスポーツアナウンサーの小池隆俊さん（第二学群比較文化学類1980年卒業）による紹介で、山下氏が拍手に包まれ登壇されました。講演会はスクリーンに映し出される映像をもとに、小池さんが山下氏の聞き手となる対談形式で進められました。

最初に1986年6月1日の日本選手権（国立競技場）での日本記録誕生の瞬間の映像が流れ、山下氏に40年前を振り返っていただきました。山下氏はあまりバランスのいい跳躍ではなかったが、ほっとした、辿り着いたような感じであったと思うと話されました。17m15という日本新記録は、当時世界のメダルに手が届く跳躍であり、「足取りを見てください」と解説者も語ったように助走の流れの良さによって生まれたそうです。トレーニングの8割が助走、ジャンプの練習はあまりなく、跳躍に入るための姿勢と足の運びを叩

き込むためにダンススタジオでのレッスンもあったとのことでした。

次に恩師村木征人先生と山下氏の2ショット写真が投影され、当時のトレーニングを紹介していただきました。モーターで引つ張られて速く走ったり、70～90cmの高さから跳び下りて実際の跳躍よりも大きな負荷をかけたり、独特なトレーニング法があったそうです。村木先生は常にフィールドにいて、大記録を生むための研究と実践が結びつく、まさに筑波大学の特徴ともいえる指導者であったと振り返られました。そして山下氏の跳躍する写真が映され、山下氏の三段跳との出会いの話に移りました。山下氏は中学ではトランペットがやりたくて吹奏楽部でしたが、父の転勤により運動部の中で陸上部に入部し、大会に出られる種目として三段跳を選ばれたそうです。三段跳は中体連の種目にはないですが、県大会を実施している三重県だったからこそ中学から三段跳と出会うことができ、高校ではインターハイ連覇もされました。筑波大学には、先輩後輩の関係がよい大学であると勧められて入学され、優しい憧れの先輩方に出会い、選手層の厚さを感じながら、いい環境で伸び伸びと練習できたとのことでした。

ここからはプライベートな話に移り、山下氏は家族写真を示しながら、奥様も三人の子供さんも、家族五人みな筑波大学の卒業であると紹介されました。山下氏の奥様との出会いは同じ陸上部ということですが、実は奥様の勘違い、入試の実技試験で行った種目の部に入らなくてはならないという思い違いに

よる陸上部への入部がきっかけだそうです。

次に兄妹三人の陸上選手が並んだ写真が映され、長男は三段跳でリオオリンピック出場、次男は200mで東京オリンピック出場、娘さんは三段跳の日本インカレで優勝を逃したと紹介されました。小池さんが、全員が陸上選手ということとは、山下氏が陸上をやらせたのでしょうか？と問いかけると、山下氏は長男には自分がやりたいこと、自分で考えて入部するよう伝えたこと、子供たちには自分が陸上で日本記録保持者であるという話は一度もしていない、親父の自慢話なんて聞かないでしようと言われました。また次男だけ



がなぜ200mなのでしょう？との問いには、兄に倣って三段跳をやっていたが、助走の訓練のために短距離を始めたところ、記録がみるみる伸び、短距離をやりたいくなったのではないかと答えられました。子育てにおいては、やりたいことをやらせてあげてやることを大切にされてきたそうです。

小池さんが、親子2代のオリンピック、トップアスリートになられた山下家のDNAや要因について尋ねました。山下氏は、やり始めたから最後まで貫き通せというふうには子供たちには願っていません。子供たちを見てみると、目標を決めて、とにかく一生懸命努力をしていたと思います。伝えた訳ではないけれども、好きなことをとことんやり抜く力が結果に繋がったのではないのでしょうか。親のできることに限りがあり、周りの人との関わり、人との結びつきの中で子供は育つのではないかと思います。自分は周りの方を信頼して子供を預けていたので、練習のアドバイスはしませんでした。子供は社会の影響を受けながら、自分で育っていく力を持っていて、親はそれを信じてあげるのだとお話されました。

最後に筑波大学の陸上競技場の写真が映され、小池さんは、山下氏にとって筑波大学は人を育てる環境としてどのような存在であったか尋ねました。

山下氏は、永田学長が先進的な研究が進み成果を挙げていると話されたことに触れ、やはりそこには人がいて、人との繋がりがさまざまな分野での成果に繋がるのだと思います。自分は今福島県の教員で、生徒に筑波大学の環境

を見てもらうよう勧めています。筑波大学は人生の中で大切なもの、人との繋がりが、出会いを育む場であると感じていますと締められました。

この後質疑応答が行われました。最初はフイールド競技で観客に手拍子を求めるパフォーマンスの質問でした。三段跳の元世界記録保持者のウィリー・バンクスが1986年頃に始め、日本では山下氏が始めたもので、観客に注目してもらい、選手は手拍子でリズムを作り、一体感を感じてやる気が湧くと答えられました。次は質問ではなく、自分が入学時には山下氏をはじめ凄い方がたくさんいたが、ぜひ筑波大学の後輩のために山下氏に動いていただけると嬉しいという発言があり、



山下氏は何をやるか思案中と回答されました。続いて山下氏の競技の引退についてのお話を伺いたいと発言がありました。山下氏は正直言うと、もっとできたと思っています。身体的な引退というよりは社会的な引退で、当時はいつまでも社会人で競技を続けるよりも社会のために働くという雰囲気でした。ちょうど辞めてから、イチロー選手のように競技にこだわる選手が出てきました。自分は知らなかったのですが、長男は社員アスリートを辞め、シフト勤務しながら休みの時に練習し、日本選手権で優勝しました。とことんやればよかった、自分には気持ちが足らなかったと思います。最後に小池さんが、来年で40年破られていない記録を筑波大学の後輩に超えてほしいか尋ねました。長男にという淡い思いもありましたが、いい選手を育て超えてくれると期待しますと答えられました。講演会は、茗溪会埼玉支部の平野正美副支部長による謝辞で終了しました。

第2部「懇親会」

写真撮影を挟んで懇親会に移りました。茗溪会千葉支部の百瀬明宏支部長（茗溪会理事）の主催者挨拶、茗溪会理事長の井口武雄様による来賓祝辞、そして茨城茗溪会の細貝雅之会長の乾杯のご発声で懇談がスタートしました。

世代、職域を超えて情報を交換し合い、親睦が深まったところで、茗溪会副理事長の阿江通良様より来賓挨拶、恒例となった宣揚歌「桐の葉」を全員で熱唱して、神奈川茗溪会の添野龍雄



会長代行による閉会の挨拶で、懇親会は閉会となりました。

東京茗溪会 第13回総会

東京茗溪会の総会は、眞當哲博副会長の開会の辞で始まり、高橋基之会長の挨拶、廣田則夫茗溪会常務理事からは来賓挨拶をいただきました。

総会の議事は高橋会長の進行で行われ、第一号議案（令和6年度活動報告・決算報告）、第二号議案（令和7年度活動計画・予算案）、及び報告事項（令和7・8年度役員・幹事）が全て承認されました。柳久美子副会長の閉会の辞により、総会は無事に終了しました。

（文責：竹鼻志乃1989筑二生物）

「材料の強さ」

「科学と工学」小史

筑波大学 名誉教授

河井 昌 道

1 はじめに

物が壊れる原因を理解し、物の破壊に対する強さを定量的に扱うことができるようになったのは、実はそれほど昔からではなく、今に至るこの百年ほどの期間においてである。この短い拙文では、「破壊に対する材料の強さ」に焦点を絞り、近年の理解と応用に至る経緯の一端を概観してみたい。

2 理想強度からの偏り

1920年頃、材料の強さは原子面を一度に切り離すのに必要な力の大きさ（理想強度）に対応すると考えられていた。しかし、その大きさは実際に観察される材料の強さよりもけた違い（百倍）に大きくなることが多く、実際の強度を説明できるものではなかった。当時、機械構造物が使用中に外力の繰り返し変化を受けることによって壊れる現象「疲労破壊」もすでに広く知られていた。その頃はまだ「き裂」が材料の強度を決める原因であることが理解されていなかったで、部品の表面を磨くと表面のき裂が除去できて、あるいはき裂の奥行き法が相対的に短くなることで疲労強度が向上する（「疲労寿命が延びる」という事実を説明することができなかった）。

そういった科学的および技術的背景の下で、「強さの評価になぜこのような食い違いが生じるのだろうか?」、「実際の材料は思ったほど強くないのはなぜなのだろうか?」、これらの素朴な疑問を抱き、その解明に取り組んだ若い研究者が英国ハンブシャー州ラッシュムアにある町ファーンバラの王立航空研究所で働いていた。破壊力学の草分けとなるアラン・アーノルド・グリフィス (A. A. Griffith, 1893~1963) である。1920年 (1921年出版) に発表された記念すべき論文には、材料の強さについてその後の科学と技術の発展を方向づけ、今日の安全な設計の基礎となる不滅の研究成果が記されている。

グリフィスはガラス棒を引き伸ばして異なる直径のガラス繊維を作製し、その引張強度を計測した。計測されたガラス繊維の強度データは論文の表に数値で与えられているだけであるが、図にプロットするとガラス繊維の強度は直径に逆比例する極めて綺麗な分布を示す。ガラス径を小さくすると強度が急激に大きくなる。ちよつと強引に実験データを繊維直径0まで外挿すると、その値は理想強度の80%に近づく。この観察によって、理想強度が空論ではないことを証明し、また理論強度に近い強度が材料を細い繊維状にすることによって実現できることを実証した。この知見は現代の繊維強化複合材料の技術の発展へとつながっていく。

逆に、ガラス繊維の直径を大きくしていくと、強度が理想強度から急速に低下してバルクサイズのガラス強度に漸近する。「ガラス繊維強度のこのよ

うな直径依存性をどのように説明したらよいのか?」、グリフィスは、この疑問（元々の疑問）に対して、切り欠き（幾何学的な形状変化部）の先端の応力集中（材料が受ける力が先端から離れた場所よりも大きくなる現象。材料に作用する力は単位面積当たりの大きき「応力」で表現する）を応用して説明することに思い至る。グリフィスは、原子間距離のスケールでガラス内に楕円孔のような傷があつて（表面の傷がより重要なのだが）、その先端の応力集中によって材料の理想強度に達する前に壊れると考えた。原子スケールの楕円形状の傷の先端の丸み（曲率半径）を原子間距離と仮定して、楕円孔の先端の最大応力が理論強度に達するときの外力を破壊強度と見なせば（応力基準）、実際の強度が理論強度よりもかなり小さくなることを説明できる。

3 き裂力学の誕生

ガラスの脆的な壊れ方からは、楕円形状の孔よりも、楕円を短軸方向あるいは長軸方向につぶしてできるスリット（き裂）を考え方がよいのではないか。楕円孔に対する理論解（イングリシが1913年に求めていた）を楕円孔の短径あるいは長径を0とおくことによってき裂に対する理論解に帰着できるではないか！イングリシ解から数学的極限操作によって求められる応力と変位の理論解を利用すれば、き裂を含むガラスに外力を与えたときガラス内に蓄えられる弾性ひずみエネルギーの解析的な表示を導くことができる。楕円孔を一つの軸方向へつぶして

得られるき裂の先端の曲率半径は0になる。弾性論はそこで応力が無限大となることを予測するので、き裂先端の最大応力に基づく破壊基準は議論しにくい。き裂を有するガラスのひずみエネルギーが有限値として評価できることにグリフィスは気づく。

き裂を有するガラスの弾性ひずみエネルギーが利用できれば、き裂先端で局所的に破壊が起きてき裂が大きくなるときのエネルギーのつり合いを次のように考えることができる。ガラス内に存在するき裂の先端で原子面が分離してき裂が大きくなるとき、そのき裂成長を生じさせる仕事（エネルギー）が必要はらずである。それはどこから供給されるのか。ガラスの場合、き裂形成エネルギーの供給源は一つしかない。ガラス内に蓄えられた弾性ひずみエネルギーである。材料の原子面分離を起こせば、そこで結晶格子の歪みとして蓄えられていたひずみエネルギーが保持できなくなるから解放される。それがき裂の先端が切れて新しいき裂面が大きくなるために必要なエネルギー（生じるき裂面の表面エネルギー）に充当されると考える（エネルギー基準）。脆的なガラスにおいては、新しいき裂面の形成に必要なエネルギーは表面エネルギーで代表できる。その値は極めて小さいので、き裂成長条件が比較的容易に満たされる。き裂成長がはじまると「き裂先端での破壊条件が満たされ続ける」ので、き裂の成長が続く、き裂が断面を一気に貫通することによって急速に全体破壊に至る。これが怖い「脆性破壊」である。かくして、グリフィスは、脆性破壊現象のメ

カニズムを明らかにし、脆性破壊強度を定量的に予測する方法を確立した最初の人となった。

その後、き裂問題に対する応力関数法が発達して、き裂の先端がどのような状態になっているかを任意の外力について計算することができるようになり、き裂が存在する状態を完全に理解できるようになった。この結果、重要な発見がもたらされる。き裂先端の応力は無限大に発散するが、き裂先端から離れた場所の応力の大きさは外部応力と現在のき裂寸法によって決まるパラメータ「応力拡大係数」によって決まることが明らかに。このパラメータがある臨界値「破壊靱性値」に達するときの進展が始まるという破壊条件（応力基準）が定義できるではないか。アーウィンとキースがこのことを見出すのはグリフィスの研究から30年後の1954年のことである。き裂先端の最大応力の有限値が決まらないので応力条件を断念したが、応力分布の全体的な特徴を見ることによってき裂先端の応力状態を特徴付ける有限のパラメータが定義できることに気づくことは示唆に富むものである。実は、このように気付くことになる応力拡大係数の表示はグリフィスが求めた破壊のエネルギー条件式を変形することによって導くことができる。グリフィスはすでに気づいていたのかもしれない。

4 き裂力学の発展

金属の場合、結晶構造の線状の乱れ「転位」が重要な影響を及ぼす。き裂の先端では大きな応力が作用するので、

き裂が大きくなるとき、それに先行してき裂先端近くの転位の移動が起きる。転位の移動（永久すべり）による塑性散逸エネルギーは固体の自由表面エネルギーよりも圧倒的に大きい（千倍）。このため、き裂面の表面エネルギーが供給できるか否かを破壊条件とするグリフィス理論は金属に対しては「見かけ上」有効ではないとみなされた。しかし、新しくできるき裂面の表面エネルギーとそれを先導するき裂先端の転位移動による塑性散逸エネルギーの和を破壊進行の閾値とみなしてグリフィスのエネルギー理論を適用すれば、金属のき裂成長による破壊強度を予測できるはずである。このような拡張によってグリフィス理論が広い範囲の材料破壊に利用できることに気づくには、マサチューセッツ工科大学のオロワン（1954年）やアメリカ海軍研究所のアーウィン（1958年）の研究を待たなければならなかった。

き裂先端の塑性変形の範囲がき裂寸法に比べて十分に小さいと仮定できれば（小規模降伏条件）、塑性変形が起きない場合のき裂先端における弾性応力分布の解析解を近似的に利用することができるはずである。この近似が成立する条件においては、弾性応力分布に基づく応力拡大係数の値がある閾値に達する条件によってき裂成長による破壊強度をかなり精度よく評価できるだろうことは想像に難くない。この近似は元々のグリフィス理論に戻って考えることと同等である。このような理解に至り、グリフィス理論は不滅の評価を受けることになる。それ以後、応力拡大係数に基づく破壊力学とその工学

的な応用研究が世界中に広がる。その閾値を評価する標準的な方法も確立されて、設計現場にも応用が急速に普及し、強度の定量的な評価によって安全性が飛躍的に向上することになる。今日の安全はこのパラメータのおかげといっても過言ではない。き裂先端で起きる塑性変形の影響は常に無視できるのか。残念ながらそうはいかない。その場合は非線形挙動に拡張された破壊力学が必要となり、新しい主役が登場する。興味深いものであるが紙面制限のため割愛する。

5 おわりに

グリフィスは、イングリスが求めた数センチ〜何センチのスケールの応力集中問題に関する理論解をオングストロームのスケールの切り欠きの応力集中問題に応用し、き裂の成長が材料強度を決める主要原因であることを明らかにするとともに、それによって原子結合強度に基づく理想強度が実現されないことを説明することに成功した。

また、この成果はき裂の進展抵抗の大きさに影響する因子の解明にもつながった。き裂の力学の草分けとなる成果を導いたグリフィスの研究は担当する仕事に直接的に関係するものではなく、たとえ伝えられており、自身の興味を付加的に追求することができないか、あるいはその成果を得る前に職場の配置換えを受けていたら、材料の強さの解明と定量的な評価についての体系的な研究と工学的な応用、そして我々が安全な機器に囲まれて生活できる時代はかなり遅れることになったであろう。

同様に、その7年前にイングリスが楕円孔板の弾性解（この誘導はかなり手ごわい！）を求めていなかったら。さらにはその百年前にヤングが実用的な研究をしていないとして王立科学研究所の地位を追われた後に弾性の研究成果を発表していなかったら。一つが遅れるとすべてが遅れる。

金属の塑性変形の機構はテイラー（G. I. Taylor, 1866-1955）らによって1934年に予言され、その20年後に実証される。グリフィスの1920年の論文はテイラーの査読を受けて受理されている。テイラーの研究は塑性力学の神とも称される応用数学者ロドニー・ヒル（R. Hill, 1921-2011）の不滅の業績へと発展していく。奇しくもヒルはグリフィス破壊力学の誕生の年に生まれている。歴史は脈々とつながっていく。

材料の強さは、新しいものを作るときだけでなく、古いものを使い続けるときにも重要になる。設計当初の使用期間を過ぎても壊れていなくて、しかも機能も損なわれていないのならば、継続して使いたいと考えるのは更新経費が抑制できるので当然である。しかし、その判断には今後どれだけの期間にわたって大きな破壊事故を起こさずに継続して使えるかを定量的に推定することが求められる。当初の設計寿命評価との違いはすべての構成要素が新品ではない状態での寿命評価が求められることにある。材料の強さと劣化の定量的な評価、そのための技術は、多くの古くなったインフラに依存する社会環境の安全維持に今後も欠かせないことを忘れないようにしたい。

ここに茗溪人！

令和7年6月19日 茗溪筑波異業種交流会

「放送100年スポーツ中継今昔物語」

情報提供者：小池 隆 俊

(NHKグローバルメディアセンター)

小池さんは、筑波大学比較文化学類を卒業後NHKに入局。運動部の経験を活かしアナウンサーとしてテニスやバスケットボールの実況中継を担当。番組制作にも関わってこられた小池さんですが、現在は法政大学などでも教鞭をとられています。

テニスを経験していた小池さんはウインブルドンの実況中継のアナウンサーを担当しました。テニスファンがあこがれるウインブルドン。それは小池さんにとって「仕事冥利」と言えるものでした。日本のプロテニス界の第一人者である福井烈さんとともにフェデラーの初優勝を実況中継しました！21歳の若きフェデラー、そのしびれるような初勝利に小池アナウンサーの口から思わず飛び出したのが「フェデラーがチャンピオンロードを歩み始めました！」という名文句！

アナウンサーとして小池さんの哲学は、「的確でわかりやすい放送を徹底する」ということです。

100年前、ラジオ放送は始まった！

1925年3月22日、ラジオ放送が始まり、この日は「放送記念日」となっている。はじめは音楽、芸能が中心だった。

1927年、日本初のスポーツ中継が始まった。全国中学優勝野球大会だ。日本初のスポーツ中継は魚谷忠アナウンサーが、一人で8日間21試合を担当した。野球経験者ということで指名されたが、アメリカ帰りの記者に野球実況の話を聞いて臨んだ。1928年には大相撲放送が始まり、翌年、全国

放送網ができる。人気があったのは東京六大学野球。早慶戦は大人気で、レコードが大変売れたそう。ラジオはスポーツを聞いて楽しむ娯楽へ！

1936年、ベルリンオリンピックが行われ、高性能マイク・ラジオを備えた放送ブースから世界32カ国にむけて、初めてラジオ実況中継で放送された水泳女子200メートル平泳ぎで前畑秀子選手が金メダルを獲得した。「前畑がんばれ！」を連呼した河西三省アナウンサーは「あと〇m」という情報も曖昧で客観性に欠けるアナウンスだったが、レース最後は立ち上がって実況を続け視聴者とシンクロする放送は、スポーツ放送のキーポイント。ラジオは、スポーツを聞いて楽しむ娯楽にしたのだ。時代は第二次世界大戦前。スポーツを話題にするようになり、スポーツを庶民の身近なものにした。

テレビの登場！

1946年、戦争が終わった翌年放送技術研究所(NHK)でテレビ研究が再開された。

1953年、2月1日NHKでテレビ放送が開始された。スポーツメディアは、ラジオからテレビへ。その年の8月28日、日テレで野球中継が始まった。後楽園球場のカードは巨人対阪神。

1964年、東京オリンピックでは、初の衛星中継。開会式は、カラーだった。マラソンの完全中継、スローモーション、ストップモーションなど、の新技术が初めてお披露目された。全世界各国がテレビを通して観戦。まさに『テレビのオリンピック』が東京オリンピックの大きなテーマだった。世の中は豊かになり、放送によってスポーツは増々人気に。「高度経済成長を体現したスーパースター」と言われた長嶋茂雄選手が現れる。当時のそれを表す流行語は「巨人・大鵬・卵焼き」。

テレビ中継黄金時代へ！

1987年、衛星放送がスタート。1991年には初めてのペイテレビであるWOWOW放送が開始。世界中のスポーツが視聴可能になり、日本の選手達も世界にはばたいた。1995年、野茂英雄選手がセドジャースに入団。1998年、中田英寿選手がセ

リエAペルージャ入団。MLBやヨーロッパサッカーリーグが日本を新たな市場に。サッカーイングランドプレミアリーグに世界のスター選手が集まるようになったが、これは衛星放送無しでは語れない。放送のグローバル化が選手のグローバル化を生んだといえる。

さて、テレビ中継全盛の時代、放映の有無が競技団体の運命を握るようになり、テレビ放映を増やすため競技団体様々ルール改正を行った。卓球はラリーが続かないためテレビに不向きと言われていた。この為バルセロナオリンピックで調査を行い、ラリーが7〜8回連続と観衆が沸くことを突き止めボールの変更を決意。科学的実験の結果ボールの直径を2ミリ大きい40ミリにするルール改正を2000年に行った。ラリー数が増えたことで視聴者の満足度が上がりテレビ放映が増え卓球人気も向上した。バレーボールはサーブ権の移動ばかりで得点がなかなか入らず試合時間が読めないため放送しにくかった。そこでサーブ権に関係なくポイントが入るラリーポイント制を1999年に導入。これにより生中継が増えバレーボール人気拡大につながった。

テレビ中継黄金時代からネット配信時代へ！

2017年、サッカーリーグの放映権を英国に本社があるDAZNが10年2100億円というテレビ局が太刀打ちできない額で獲得し「スポーツ中継の黒船」と言われた。

2022年のサッカーW杯カタール大会は放映権の高騰でジャパンコンソーシアム(NHKと民放共同組織)が獲得を断念。日本でW杯を見られないかもしれないという不安がよぎったが、ABEMAが高額の放映権を獲得し全試合を無料配信するともにテレビ局にも権利を再販したため、配信でもテレビでもW杯を観戦することができた。まさにABEMAが救世主となった形であり、テレビの時代からネット配信の時代へ変わることを印象付ける出来事だった。今後スポーツの放映権はさらなる高騰が予想される。

放送開始から100年を経て、これから先、スポーツ中継はどういう方向へ進むのだろうか。

1975年度(昭和50年度)筑波大学入学の皆様へ

入学50周年記念同窓会 開催のお知らせ



皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

1975年(昭和50年)に私たち
が大きな夢を抱いて筑波大学に入
学した日から、半世紀の時が流れ
ました。その時間を改めて共有し
大切な思い出を語らう「筑波大学
入学50周年記念同窓会」を茗溪会
館において開催いたします。

学類・学群ごとの交流や、誰も
が自由におしゃべりをお楽しみい
ただくのはもちろん、筑波大学学
生歌「常陸野の」、宣揚歌「桐の葉」
の斉唱も予定しています。いずれ
も筑波大学のホームページで聴く
ことができますので、余裕のある
方は練習してご参加下さい。大歓
迎いたします。

また、スライドショーでは、各
学群の校舎が増えていく様や懐か
しの学生寮など学内の移り変わり
を見ることができ、どつぶり思い
出に浸れること請け合います。

出欠については、QRコードよ
り回答していただくか、お問い合
わせ先の茗溪会事務局にご連絡く
ださい。

なお、すでに連絡先を把握でき
ている方には各学類・学群有志に
よる実行委員が開催通知をお送り
しておりますが、連絡先のわから
ない方が数多くいらっしゃいます。
申込み期限まで時間があります
が、ご友人にお声掛けいただきま
すようお願いいたします。

50年分の思い出と未来への期待
を胸に、皆様と再会できることを
心より楽しみにしております。

1. 行事名：筑波大学 1975年度入学 50周年記念同窓会

2. 開催日：2026年2月22日(日) 午後2:00～5:00

3. 場 所：茗溪会館 2階「茗溪の間」

東京都文京区大塚1-5-23 地下鉄 丸ノ内線 茗荷谷駅下車 徒歩2分
会場へのアクセスは茗溪会館ウェブサイトをご確認ください。

4. 会 費：8,000円

5. 次 第：昔懐かしい写真のスライドショー

筑波大学の今

「常陸野の」「宣揚歌」斉唱

近況報告など、詳細は乞うご期待

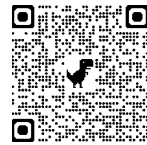
6. 参加確認のお願い：

右記のQRコード、または、<https://forms.gle/ruk62XZBaxuk64c6> より

参照できる登録フォームから、1月31日(土) までに、回答をお願いいたします。

スマホ・パソコンを使用されない方は、お問い合わせ先へ、

メールあるいは電話等でご連絡ください。



〔筑波大学1975年度入学
50周年記念同窓会実行委員会〕

第一学群

人文

人文

人文

社会

自然

第二学群

比文

比文

人間

生物

生物

農林

農林

体專学群

芸專学群

医專学群

片岡良美(旧姓 大喜多)

小泉玲子(旧姓 浅野)

平井良夫

田巻松雄

花上克宏

平野正美

山本具子(旧姓 北村)

飯島睦子

高橋京子

山本秀一

堀江雅弘

長谷川聖修

梅林 薫

調整中

調整中

〈お問い合わせ先〉

茗溪会事務局内

1975年度自然学類入学

花上 克宏(実行委員長)

電話番号

03(3941)0136

メール

hanagami@meikei.or.jp

『旅に出る、エッセイを書く』

著 者…秋山秀一（S50院修地）
本の大きさ…B6判 全208頁
発行 所…新典社
発行年月日…2024年8月15日

自分にしか書けないものを、誰にでも分かりやすく書く。エッセイを書くとき、このことを、常に意識している。自分にしか書けないものを書くために、題材は、自分自身が実際に体験したこと、見たこと、考えたことの中から選ぶ。

何を書くか。それが決まれば、しめたもの。だが、これが、そう簡単には、決まらない。

悶々として、やっとテーマらしきものが見えてきたら、とりあえず、書き始める。書いているうちに、方向性が見えてくることもある。が、ホッとしたのも、つかの間。「あー、これではだめだ」となって、また振り出しに戻ってしまう。そんなことを何度も繰り返しているうちに、締め切りの時間が迫ってくる。

（本文から）

『心に響け剣の声』

著 者…村嶋恒徳（S52教大武H03筑修体）
本の大きさ…A5判 全353頁
発行 所…体育とスポーツ出版社
発行年月日…2025年2月25日

剣道をご存じですか？

学生時代に授業で体験されたり、何かの機会に見たという人も多いかと思えます。実際に経験、継続されている人は日本国内で一七〇万人で世界では二五〇万人いると言われてます（スポーツ・辞典より）。その剣道について次のような記事があります。

「剣道は不思議なスポーツだ。一度稽古すると、家族のような関係になってしまう」。

これは、東京芸術大学のコスタリカからの留学生が剣道の印象を雑誌に寄稿した文です。私も同じような感覚を持っている一人です。多様化が進み人間関係がより複雑になりました。また世界のどこかで戦争が続いています。泣き叫ぶ表情が毎日ニュースに流れます。ですから、この不思議なスポーツの力を借りて、皆が兄弟のように幸せにならないかと思っていました。

（本文から）

『父が子に語る科学の話』

著 者…立花希一（S50教大哲S59筑博哲）
本の大きさ…新書判 全304頁
発行 所…講談社（ブルーバックス）
発行年月日…2024年7月20日

本書は、一九六六年夏に著者のヨセフ・アガシ（一九二七—二〇二三。以下、「アガシ」と息子のアロンとのあいだで実際に行われた対話の記録である。アロンは一九五八年生まれなので、わずか八歳のときに高度な科学および哲学の内容を理解し、議論したことになる。（中略）

訳者は、一九八〇年から一九八三年までの三年間、アガシに師事するためにイスラエル政府給費留学生としてテルアビブ大学に留学していた。（中略）

すなわち本書は、父のアガシが、知的に早熟な、今でいう「発達障害」のアロンと真摯に向き合い、科学および科学の母胎でもある哲学へ特に自然哲学へを題材に選んで、息子を温かく見守り励ましなが、真剣に語り合った記録といえる。

（訳者解説から）



茗溪・東西南北

令和7年度 京都茗溪会

総会・懇親会 開催報告

「京都茗溪会 世代を超えた絆、笑顔と交流で深まるつながり」

令和7年11月22日(土)、「令和7年度 京都茗溪会 総会・懇親会」を開催しました。今年度は、昨年度を上回る26名の会員が参加し、盛会となりました。

【総会】

17時より開会し、以下の議事を進行了ました。

○会長挨拶

三橋利彦氏(昭和58年卒)より

○令和6年度事業報告・会計決算及び監査報告

○令和7・8年度役員選出・承認

新役員は満場一致で承認されました。

○新会長挨拶

遠山秀史氏(昭和61年卒)より

○会員顕彰・慶事

京都茗溪会の規定に基づき、塩見均氏(昭和47年卒)に喜寿のお祝いをしました。

会員報告

茗溪会本部理事であり、元NHK京都放送局長の小林千洋様より、「茗溪会の現状」と題して、茗溪会の現状と今後の課題についてお話いただきました。

【懇親会】

17時30分より開会し、最年長出席者の竹延信三氏(昭和42年卒)による挨拶に続き、橋本知之氏(昭和44年卒)の乾杯でスタートしました。

○歓談

世代を超えた交流が活発に行われ、和やかな雰囲気になりました。

○会員スピーチ(近況報告)

自己紹介や近況報告を交え、笑いあり、感動ありのスピーチで大いに盛り上がりしました。

○閉会挨拶

川合英之氏(元会長、昭和56年卒)より「多世代での交流は大変意義深いもの。来年度はさらに出席者を募り、より盛り上がる会に」との言葉をいただきました。

○宣揚歌斉唱・記念撮影

最後は全員で肩を組み「宣揚歌」を合唱し、記念撮影を行って閉会しました。

今年度も、会員同士の絆を深める有意義な時間となりました。来年度はさらに多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(藤原秀規)

「かながわ茗溪サテライトの会」

(旧「若手の会」)

令和7年11月29日(土)に、横浜駅東口前S K Yビル11階「大陸」にて開催しました。

「若手の会」から発展した「かながわ茗溪サテライトの会」も3回目を迎え、今年度は14名の参加となりました。今回もワークショップを通じて、第1テーマ「老若男女が集まりやすい会のアイデア」と、第2テーマ「かながわ茗溪サテライト会はどうあるべきか」について、参加者がポストイットで意見を出し合いました。

第1テーマでは「雰囲気改善」「対象の拡大」に加え、「SNSの活用」「かわいさを大切に」という現代的で柔軟な視点が整理されました。

第2テーマでは「交流の場」「気楽で楽しい」「メリットを増やす」といった方向性から、さらに「教職中心からサテライト中心へ」「サテライトからスターへ」といった意欲的な将来像まで導き出され、一同大いに感嘆しました。

新たな仲間も加わり、「かながわ茗溪サテライトの会」はますます活気を帯びています。次回の展開にも大いに期待が高まる会となりました。

(大和田幹夫 H3筑一自然)

令和7年度 茗溪会宮城支部

総会・講演会・懇親会

令和7年11月29日、本部より副理事長兼事務局長の矢野正人様を講演講師にお迎えして、当支部の「令和7年度 総会・講演会・懇親会」が開催され、盛会裏に終えることができました。

本部からは、開催にあたっての財政的な補助もいただきましたこと、感謝申し上げます。

直前に、インフルエンザによる欠席が3名出ましたが、19名の出席で、楽しいひと時を過ごすことができました。

さて、総会で「当支部の社会貢献活動」として以下の内容が決議されましたので、ご報告の上、今後の対応についてご教示いただければと思います。

①「茗溪創基150年記念事業」への団体寄付(4万円)により、茗溪会館への銘板に「茗溪会宮城支部」を記す。

② ①による「茗溪150年記念誌」の1冊提供と、さらに1冊の実費購入による「計2冊を宮城県図書館に寄贈」する。

(宮城支部 事務局長 山崎健二)

※写真はP1のグラビアに掲載しました。

◆東京教育大学五三の会（昭和53年生物化学工学科卒）

と き 令和7年7月5日(土)

ところ 横浜「ツタンカーメン・ミュージアム」及び
「横浜ビール本店UMAYA」

ここ数年おきに、東京と横浜を交互に会場として開催してきた同窓会ですが、今年は横浜在住者が中心となり開催しました。昭和53年卒業から五三の桐の葉のイメージで「五三の会」と称しています。幹事石田君発案指定で、日産グローバル本社ギャラリーを集合場所として、他大学大学院へいった人も合わせて14人ほどが集まりました。最初の集合場所のみで久しぶりの再会を楽しみ都合で帰途についた人や、途中参加で最後まで同行した人など、それぞれの都合を尊重した会となりました。JR横浜駅東、みなとみらい地区集合場所から南に、まださほど暑くならない季節の横浜の街並みを徒歩で楽しみました。途中、みなとみらい線新高島駅近くで開催中の「The mystery of Tutankhamen～体験型古代エジプト展」（ツタンカーメン・ミュージアム）でトータルコーディネーターを依頼されたという同期森君の詳細な古代エジプトの歴史と悲劇の王ツタンカーメンに関する説明を傾聴し、外部への持ち出し禁止のため、地元エジプトの大学の先生が作製したという、ツタンカーメンとその周辺宝飾品等の精密なレプリカに感動を得ました。その後、懇親会会場の横浜のクラフトビールが楽しめるという「横浜ビール本店UMAYA」に移動し、それぞれの活躍と健康を祝して乾杯となりました。次回は1年半後に、埼玉在住グループが企画幹事となり、秋の川越開催を予定とし、再会を期して散会となりました。



(文責 依田昌樹)

◆農林学類3期生会

と き 令和7年9月28日(日)

ところ 嘉ノ雅茗溪館（茗溪会館）

前日の27日には筑波大学で農林・生物資源学類の50周年記念が行われ、出席した辻井さんと宮越さんからその模様が報告されました。また宮越さんは農林同期の奥様であるリカさんと2年間タイへ行っておられ、その話もお聴きすることができました。出席者は11名と少なかったですが中身の濃い同期会となりました。出席者を以下に示します。井形圭治、伊藤昭憲、笠倉賢治、小寺克枝、佐藤（金成）浅香、辻井直樹、中島進、中村泉、宮越俊一、山口松太郎、渡邊（草間）悟。

(文責：56筑二農・筑博農 渡邊(草間)悟)



◆筑波大学体育専門学群1期生古希記念同期会

と き 令和7年10月5日(日)

ところ 嘉ノ雅茗溪館（茗溪会館）茗溪の間

「出会いから52年」と銘打って古希を迎えた1期生78名が北から南から集まりました。懇談に先立ち体育スポーツ局長高木英樹先生による「筑波なう」の講演で、現在の大学紹介をしていただきました。椅子に着席しての懇談と、引き続き1階カフェでの二次会は、高齢者に仲間入りした参加者から有難いと好評でした。次回は2028年です！

(文責 飯田満枝)



◆筑波大学ブロックフレーテ同好会設立50周年記念行事

と き 令和7年10月11日(土)

ところ co-enイベントスペースco-event、東京バルGarden Terrace

「ブロックフレーテ」とは聞き慣れない言葉かも知れませんが、これは小中学校における教育楽器としても使われているリコーダー（縦笛）のことで、ドイツ語に由来しています。さて、筑波大学の草創期である1975年に誕生した当サークルが設立50周年を迎えるにあたり、卒業生一同が集まる記念行事を設立以来初めて開催しました。これまでサークルの卒業生を束ねる組織がなかった



ため連絡先不明の方も多かったのですが、最終的に卒業生25名と現役会員6名の計31名に出席していただくことができました。記念行事は第一部としてつくばセンター近くのイベントスペースにて有志の演奏者による演奏会、第二部として筑波大学春日エリア内の飲食店に場所を移して懇親会という二部構成で行われ、サークルを立ち上げた第1期生の方や、卒業後にプロのリコーダー奏者になった方などにもお越しいただき、盛会のうちに終わりました。これをきっかけに今後は卒業生同士のつながりを深めていくことができればと思います。

文責：赤澤 正彦（筑一自然）

◆筑波大学農林学類9期生

と き 令和7年10月25日(土)

ところ 嘉ノ雅茗溪館（茗溪会館）



会員が還暦を過ぎ、人生の方向を見直すような年齢となり、同窓会開催の気運が高まりました。前回の2014年以降の開催となり、皆が齢を重ねていましたが、会話が進むにつれ入学した1983年からの大学時代が蘇りました。変わっていない仲間の姿に、筑波の地でともに奮闘し失敗し、泣いたり笑ったりした経験が今につながっていると確信しました。私たちの筑波大学での経験がこれからの人生の活力になると感じた一日でした。

(文責：藤田忠弘)

◆東京教育大学体育学部昭和47年入学生「第5回同窓会」

と き 令和7年11月5日～6日(一泊)

ところ 熱海温泉「湯宿みかんの木」



みんなが「還暦」を過ぎたということで平成26年に第1回を開催した学年「同窓会」、2～3年毎に開催し回を重ね、今回は「古希」を過ぎた「同窓会」として一泊二日の内容で熱海に集まり開催をしました。参加者は、体育学科22名、武道学科4名、健康教育学科5名、合計31名、宴は一次会2時間、二次会2時間、そして翌日の朝食会とたっぷり時間を取ることができ、みんなが近況や健康話に花を咲かせました。

(実行委員長 日高哲朗)(木原資裕)



近年、医薬品の開発・製造力強化が必要なことから創薬ベンチャー、スタートアップ支援の強化が叫ばれています。今回、最前線で活躍するS M B C日興証券株式会社の原田和保さん（H19人間学類卒）に話題提供頂き、議論を交わしました。

◇ ◇ ◇ 「デジタルヘルス領域を取り巻く動向とDTx（デジタルセラピューティクス）の現在地」

〈デジタルヘルスの現状と動向〉

多くの企業（医療系・非医療系含む）がヘルスケア事業に注目し投資している。特に健康予防領域に関心が集中している（規制が少なく参入しやすい）。技術開発は進んでいるが、市場化にはまだ課題がある。

〈製薬企業のデジタルヘルス戦略〉

主に5つの分野に注力している。

- ① 患者エコシステム（早期発見・治療への連携）
- ② 診断系ソリューション（疾患リスク評価・診断補助）
- ③ 遠隔診療と処方（ダイレクトトゥーコンシューマー）

- ④ パーシエンメントサポートソリューション（服薬管理・副作用対策）
- ⑤ デジタルセラピューティクス（DTx…デジタル治療薬）

〈デジタルセラピューティクス（DTx）の現状〉

医療機器として承認されたデジタルソリューション。
日本では現在6製品が承認済み（うち3製品が保険収載）。
主に認知行動療法をベースとした介入が多い。

ニコチン依存症、不眠症、うつ病、ADHD等の領域で展開。

〈DTxの課題と限界〉

開発コストが高い（一般アプリ…数百万～数千万円 vs DTx…数億～10億円以上）。

保険償還の獲得が難しい（特に客観的バイオマーカーがない疾患）。

ユーザーインターフェース・エクスペリエンスの問題（継続使用率の低さ）。費用対効果の証明が不十分。

医師の受け入れ度の低さ（特にデジタルに抵抗がある医師）。

〈今後の展望と可能性〉

人間ができることの代替ではなく、人間が届かない領域でのソリューション開発が重要。

例①急性症状の予測（てんかん発作の予知など）

② 投薬管理の自動化（人工臓腑など）
③ 物理的介入（PTSD患者の悪夢検知・介入など）

デジタルバイオマーカーの開発が今後のカギとなる。

医療機器としてではなく、民生ソリューションとしての展開も検討すべき。

〈業界構造の課題〉

省庁間（厚労省・経産省・財務省など）の方針の違いによる足並みの乱れ。医療費削減と産業振興の相反する目標の調整が必要。

技術開発と規制のバランスが取れていない。

交流会は9回を迎え、会を重ねるにつれ討議のテーマも深まっています。関心のある方々のご参加をお待ちしています。

* 本記事の詳細は、以下のQRコードにより茗溪会ウェブサイトでご覧いただけます。



桐の葉のつどい



◆ 令和7年度 茗体会総会・懇親会

と き 令和7年11月22日(土)

ところ グレースバリ新宿3階「アロナ」

「茗体会」は、東京高等師範学校体育科から東京教育大学体育学部の卒業生、令和2年度からは筑波大学体育専門学群の卒業生も加わった「茗溪体育の高齢者同窓会」です。概ね65歳以上の卒業生が参加している任意の親睦団体です。以前は、例年は関東中心に、5年に一度は全国規模で、総会と懇親会を実施していましたが、筑波大学との接続後は全国のシニア卒業生に毎年『茗体会だより』で情報発信するとともに、総会・懇親会を案内しています。総会では毎回30分程度の講演も行っています。今年は谷出正直さん（H15筑大体・H17筑大院）から「体育専門学群生の進路とその選択理由」について話を聞きました。理由を聞き納得もりましたが、教員採用という面では危機感も覚えました。参加者は28名、同窓生と楽しいひとときを過ごし、満足の日になりました。（文責：柳 久美子）

交流の輪を広げませんか？

- 他大学では薬学部同窓会等で情報交換をしていると聞き及びます。筑波大学には薬学部はありませんが、医薬品及び関連業界関係の方々が多くいらっしゃるようです。母校に薬学部が無いということは逆に広く大きな輪になる可能性もあります。皆さんで交流の輪を広げませんか？

交流の輪に加われる方、関心のある方は、下記連絡先にご一報下さい。

茗溪会事務局（大塚事務所）

☎03-3941-0136、E-mail：peer@meikei.or.jp

追 悼 録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

越智 梓
S19理一 京都 R7. 7.30 長男 越智 寛
藤本 美治
S20農教 徳島 R6. 6. 9 二女 藤本 温子
春成 幸男
S23理三 東京 R7. 9. 6 従甥 春成 正弘
石坂 純
S29教大体 千葉 R7. 2.13 長女 高橋 東子
石塚 憲
S30教大英 鹿児島 R6. 5.14 長男 石塚 潔
飯田 宏
S30教大体 三重 R7.11.14 長女 飯田さつき
柴田 實
S31教大体 大分 R7. 1. 1 妻 柴田 節代
島村 静雄
S37院修日文 東京 R5. 3.11 二女 小坂 典子
山田 一彰
S32教大特教 千葉 R6. 8.29 長男 山田勇一郎
大河内邦昭
S33教大農 長崎 R7. 9. 3 妻 大河内奈々子
渡部 岑生
S33教大体 東京 R7.10. 1 妻 渡部 昌江
山内 康子
S34院修日文 東京 R6.11.28 長女 山内あかね
村山 暢利
S34教大英 東京 R7. 2. 6 妻 村山 幸江

村山 忠幸
S36教大教 東京 R7. 5.31 妻 村山 登美
高橋 洋二
S36教大地 千葉 R7. 2.21 妻 高橋 昭子
平山 和彦
S48院博日史 東京 R6.12.13 長男 平山 悠人
根本 治
S37教大英 千葉 R7. 6. 7 長男 根本 泰
山下 皓三
S37教大特教 神奈川 R7.10. 7 妻 山下 時枝
木村 至
S40教大農工 静岡 R7. 9.16 妻 木村ふじ子
有田 博充
S41教大教 鳥取 R7.10.28 妻 有田 爽子
布浦 宏
S49院修健 群馬 R7. 2. 5 妻 布浦美津子
竹内 京子
S50院修健 埼玉 R7.11. 1 夫 竹内 義人
西郷 正道
S54筑二生 東京 R6. 5.27 妻 西郷江利子
武藤 孝典
S33教博教 埼玉 R7. 7.10 長女 齋藤真由美
佐藤 弘樹
S61筑体 福島 R7. 8. 9 妻 佐藤 晶子
益田 凡夫
S31教大構成 福岡 R7.12. 8 姪 徴 純子

桐の葉のつどい



◆人間学類 2 期生会

と き 令和7年11月8日(土)
と ころ 嘉ノ雅茗溪館(茗溪会館)

初参加者2名を加え、2年続きの同窓会を開催。恒例となった現役内科医の井上君から健康講座を受ける。今年のテーマは「認知症」、2025年厚労省研究班の推計によれば、65歳以上の1,035万人、28.3%は認知症ないしは予備軍で問題があるという。記憶力、注意力の低下が年齢以上に進み、同じ話、同じ質問、置き忘れ、失せ物、探し物が増えるとか。家事に時間がかかり、料理の手順がわからない、銭勘定ができず、大きなお札ばかりで支払うなど、具体例にうなずくばかり。ただし、同窓会に出席するなど人付き合いをさけないひと(今日来ている人)は大丈夫で一安心。次回が楽しみである。 文責：平田 治(1980筑二人間)

【茗溪会事務局からのお願い】

～会員様ご逝去の連絡先について～

◆茗溪会大塚事務所

(火曜・木曜・金曜 10時～16時)

メール：info@meikei.or.jp

電 話：03-3941-0136

◆メール・お手紙でのご連絡について

- 会員様のお名前(漢字・フリガナ)
- ご逝去年月日(享年 歳)
- ご連絡者のお名前・続柄
- 日中にご連絡のとれる電話番号
- 会員番号が分かればご記載下さい

◆茗溪会よりお問合せをさせていただく
ことがあります。

筑波大学は今

第51回筑波大学学園祭「雙峰祭」を開催

11月1日～3日に、第51回筑波大学学園祭「雙峰祭」が開催されました。気持ちのいい秋晴れのもとキャンパスが大いに賑わいました。

前夜祭での、学園祭実行委員会委員長による鏡開きとそれに続くパフォーマンスが会場を熱く盛り上げる中、学園祭が開幕しました。

本祭では、260もの企画が屋内外や特設ステージにおいて実施され、学生たちは日頃の研究や課外活動の成果を創造性に富むアイデアで表現していました。今回は学生自ら構築した特設配信サイトを通じた全てのステージの生配信を実施し、渾身のパフォーマンスをご来場いただけた方々へも広く発信しました。

学園祭のフィナーレを飾る後夜祭には、ご来賓の方々にご出席いただきました。会場は秋冷えを感じさせない程の熱気に



包まれる中、夜空を照らす打上げ花火が学園祭のクライマックスを飾りました。

筑波大学、そして雙峰祭の次の50年に向けた第一歩である51回目の雙峰祭は、大盛況のうちに幕を閉じました。今年もたくさんの方にご来場いただき、今回のテーマ『むすんで、ひらけ』にあるように、学生や教職員、地域社会や卒業生、様々な方の結びつきとともに創りあげた盛大な祭となりました。

第49回筑波大学秋季スポーツ・デーを開催

11月15日、16日、つくばキャンパスにおいて第49回秋季スポーツ・デーを開催しました。

筑波大学のスポーツ・デーは、開学して間もない昭和52年に第一回を開催して以来、春季と秋季の年2回、各二日間開催し、本学の学生・教職員が共にスポーツを楽しむことのできる、筑波大学ならではの伝統ある行事です。スポーツ・デー学生委員会が運営の中心を担い、企画・準備に取り組みました。

開会式においては、吹奏楽部とヒーローアクション同好会によるコラボパフォーマンスが行われ、華々しく幕を開けました。二日間とも天候に恵まれ、屋外ではサッカー、ソフトボール、アルティメット、屋内ではバレーボール、バドミントン、e-sportsの各種目において熱戦が繰り広げられました。

また、学生委員会企画としてイント



ロンドン、モルック、サバゲー、気配斬りなどが、サークル企画として課外活動団体の体験教室・公開練習が行われ、参加者達は仲間と一緒に笑顔でスポーツを楽しんでいました。

今回も、参加者の協力およびスポーツ・デー学生委員のスムーズな運営対応により、無事、全日程を終了することが出来ました。

第28回（令和7年度）ホームカミングデーを開催

11月2日、第28回筑波大学ホームカミングデーを開催し、卒業後20年を迎える卒業生を中心に、前後年度の皆さまを含む約450名の方にご参加いただきました。卒業生の皆さまから事前にお寄せいただいた学生時代の写真を投影しながら、当時のキャンパスライフを振り返りました。同級生同士で参加された方も多く、会場のあちこちで旧友との再会を楽しむ姿が見られました。

「今日が初めての帰ってきた日」で



す」と話す卒業生も多く、久しぶりの母校の雰囲気や変わらぬ自然豊かなキャンパスに、皆さまからは懐かしさと安堵の声が寄せられました。参加者の皆さまからは、学生時代の思い出だけでなく、卒業後の経験や現在の挑戦など、多くの近況も伺うことができました。

今後も、皆さまがいつでも安心して「帰ってこられる」大学であり続けるとともに、教育・研究・学生支援のさらなる充実に取り組んでまいります。

茗溪学園だより

高校2年海外研修

本校の高校2年生のメイン学年行事は、海外研修です。MG、AC、IBに分かれて行われます。行先も活動内容も異なりますが、それぞれ紹介します。

MG組Ⅱシンガポール・マレーシア

MGとは一般クラスを示す表記です。5学級192名が、10月5～10日6日間の日程で、シンガポールとマレーシア・ジョホールバルで研修を行いました。研修内容は、海外で働く日本人を知るⅡ日系企業訪問、学校交流、各自の個別テーマでの調査活動の3本柱です。生徒には、将来の自分が社会に貢献するためにどうすればよいか考える、というテーマが与えられていました。

AC組Ⅱ台湾・ベトナム

ACとはアカデミークラスを表わしています。2学級72名が、10月19～26日8日間で台湾、ベトナムを訪問しました。台湾では、姉妹校である国立嘉義高級中学と台中女子高級中学に分かれて訪問し、研究発表会（双方英語での発表）などの

交流が行われました。ベトナムでは、ハノイ外国語大学付属高校を訪問、2泊のホームステイを含む交流が行われました。

IB組Ⅱシンガポール

IBは、国際バカロレアのことです。1学級45名で10月26～31日6日間の日程でした。研修内容は、姉妹校のセント・ジョセフ校（IB課程の学校）での研究交流、大学訪問（シンガポール国立大学、シンガポールマネジメント大学、南洋理工科大学から2校訪問）、日系企業訪問のほか、都市計画をメインテーマとしていました。都市計画は、生徒達が決めたテーマで、事前に筑波大学教授の講演を聴くなどの準備をしていました。シンガポールでの現地調査を通じて比較検証をしたことで、さらに学びを深めることができました。



シンガポール国立大学にて

SSH海外研修

本年度のSSH海外研修は、11月23～27日の5日間、オーストラリア・シドニーを研修地として、次のテーマで行われました。森林火災（2019年発生の大規模火災）と復興（自然災害と地域社会の関係）について、現地高校生（「インターナショナルグラマースクール」の生徒達）と共同テーマで研究をし、被災者などへのインタビューをしました。また、シドニー工科大学や「独立行政法人エネルギー金属鉱

物資源機構」シドニー事務所を訪問して、オーストラリアのエネルギー資源や環境問題について研究をしました。

公開シンポジウム・中等教育を考える

公開シンポジウム・中等教育を考える

11月22日、つくば国際会議場を会場に同シンポジウムを開催しました。今回のテーマは、「よい入試問題を選び、鑑賞眼を鍛える」でした。ACクラスの生徒達が、話し合いをして決めたテーマですが、これまで経験した入試問題などから「推しの一問」を選び、その問題の背景（出題者の意図や魅力）を分析し発表するというものです。



学外から招いたアドバイザーや会場の参加者から寄せられる手加減のない質問にひるまずに回答するなど、よく頑張っていました。これらの質疑を通して理解を深めていく様子が見られました。

よりよい教育を求めてACクラスを開設して5年経ちました。着実に力を着けていけるよう、引き続き実践努力をしてまいります。

IBDP取得状況

本校のIB課程は2017年に始まり、今年度は第7期の修了生となります。11月に最終試験があり、その結

果が届きましたので、これまで分を含めIBDP取得状況の報告をします。

1期13名取得・13名中
2期12名・12名 3期16名・16名
4期15名・18名 4期23名・24名
6期29名・30名 7期33名・33名
現在IB課程に在籍している生徒数は122名です。年々応募者が増え、来年度は130名を超えると予測しています。入学者増に合わせて開設授業も増やす計画です。柳井正奨学金や日本学生支援機構海外留学奨学金をいただいで海外大学へ進学する生徒も数多くいます。

全国モデルロケット大会・準優勝

日本モデルロケット協会主催（JAXA、文科省後援）の同大会が、土浦市霞ヶ浦総合公園で開催され、本校高校2年生チームがパラシュート滞空時間競技の部で準優勝しました。74チームが参加、滞空時間は62・47秒でした。



準優勝を果たした生徒達

部活動報告(試合結果など)

- 高校ラグビー部：第105回全国大会出場（14年連続31回目）東大阪市花園ラグビー場12月27日初戦
- 中学ラグビー部：第45回東日本大会優勝（6年ぶり19回目）、第31回全国ジュニアラグビー大会出場（年末、東京）
- 高校体操部：県新人・男子個人総合優勝（全国選抜大会出場3月長野県開催）
- 中学体操部：県新人・男子個人総合優勝、団体は男女とも準優勝
- 中学テニス部：北関東私立中学大会・女子準優勝（全国大会出場12月神戸開催）、関東新人・男子団体ベスト8（全国選抜大会出場3月香川県開催）
- 中学劇部：県大会（本校アゴラホールにて開催された）優秀賞（関東大会出場、3月開催）

令和7年秋の叙勲

おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

石井 英也	42 教大地	50 院博地(名誉教授の会)
数見 隆生	44 教大健	46 院修健
植屋 清見	44 院修体	(山 梨)
村松 常司	44 教大健	(愛 知)
米田 吉孝	43 教大健	(愛 知)
油野 利博	43 教大健	(鳥 取)
山下 晃功	43 教大木工45 院修林	(鳥 根)

瑞宝小綬章

横山 道夫	53 教大農経	(福 島)
圓城寺賢一	53 筑体	(茨 城)
福本 修二	36 教大健	(神奈川)
南 敏章	52 教大数	(神奈川)
西牧 守	52 教大応数	(長 野)
小野寺 篤	51 教大健	(新 潟)
南部 則雄	53 筑体	(福 井)
岩城 明	55 筑一人文	(静 岡)
中島 潤	53 筑一自	(岐 阜)

瑞宝双光章

横嶋 信生	48 教大健	(富 山)
山下 正明	52 教大健	(福 井)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

広 報

筑波大学主催・茗溪会共催

《第40回 教職研修会》対面式

月 日…令和8年2月22日(日)9:30

会 場…筑波大学内

内 容…個人面接講義 論文の講義 受験体験談
模擬授業講義 集団面接等の講義

※詳細は茗溪会ホームページを参照してください。

【公益財団法人 柴田育英会だより】

去る令和7年10月19日(日)、茗溪会館において奨学生と役員の方々との直接の交流を目的とした令和7年度「奨学生懇談育成会」が昨年に引き続き開催されました。

柴田育英会の理事等役員が10名と、筑波大学他4大学の奨学生全8名のうち5名が参加しました。会食をしながらの奨学生の自己紹介および近況報告の後、役員の話などで交流を深めました。

(柴田育英会 事務局)

表紙写真について(筑波大学学園祭実行委員会)

筑波大学学園祭実行委員会は、令和7年11月1日から3日にかけて開催されました、第51回筑波大学学園祭「雙峰祭」を運営いたしました。幸い天候にも恵まれ、4万人の来場者の皆様と共に、筑波大学の秋を彩る一大イベントを創りあげることが叶いました。今年度は、クラウドファンディングや新規企画など多くの新たな試みを行いました。表紙の写真は、そぼたんのモニUMENTが雙峰祭50周年を記念して昨年設置され、好評だったことを受けて今年度も設置された松見池前での筑波大学学園祭実行委員会の活動の様子です。

編集後記



季刊誌『茗溪』の表紙のデザインは1024号(2000年正月号)まで10年間にわたり筑波大学芸術学系高津道昭教授に担当して頂いておりました。その後、1025号(2000年春号)から筑波大学芸術学系西川潔教授に表紙のデザインを担当して頂くこととなりました。上記の『茗溪』1025号(2000年春号)から『茗溪』1076号(2013年正月号)までの表紙デザインのテーマは「水」をイメージしていました。

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
- ・年会費のお振込は、早めにお願いたします。

令和8年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪 会

茗溪会事務局・大塚事務所

〒112-0012 東京都文京区大塚 一五二二三

TEL 〇三―三九四―〇一三六

FAX 〇三―三九四―一七六七

E-mail info@meikyo.or.jp

URL http://www.meikyo.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇―二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台 一―一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九―八五〇―〇四四

FAX 〇二九―八五〇―〇四五

E-mail tsujimu@meikyo.or.jp

印刷 東京都文京区関口 一―三九一〇

山浦印刷株式会社

— 筑波大学の知の発信 —
筑波大学出版会

最新精子学

稲葉 一男
吉村 健一
田村 直人
久慈 昭人
伊藤 太郎
学集 監修



生物学、水産・畜産学、農学、医学など精子に関する知識を分野横断的に網羅した唯一無二の解説書『精子学』『新編精子学』に続く【精子学】成書第三弾

ISBN 978-4-904074-90-9 (紙版) C3045

B5判並製 372頁 紙版・フルカラー電子版 定価 12,650円

新しい量子力学入門 上

小泉 裕康 著



2025年に100周年を迎えた量子力学。この間に発展・蓄積された知識を蒸留し、初学者向けに再編した現代的な入門書(下巻:令和8年7月刊行予定)

ISBN 978-4-904074-92-3 (紙版) C3042

B5判並製 242頁 紙版・電子版 令和8年1月19日刊行

刊行予定 ストレスマネジメント — 理論と実践 —

水上 勝義
辻 大士 著

(令和8年3月刊行予定)

販売:丸善出版



株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人(昭和57筑基工)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪2-5-4
TEL 0297 (52) 1 2 2 1 FAX 0297 (52) 1 2 2 0

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケイエスアイ**

本社 〒557-0063

大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」

TSUKUBA WAY プロジェクト

～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武 (体育専門学群) 2004年卒



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)4501

取締役副社長執行役員 植岡 祥之(昭57筑社工)

学校服のことなら

株式会社 **オリムピア**

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 1-43-6

TEL:03 (3654) 2251 FAX:03 (3651) 2323

<https://www.s-olympia.com>

取締役 渡邊(草間) 悟(56 農林・62 博農)

集めるのは「知識」と「技術」

さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオントツを形にする会社

PiCK & MiX

Keeping Up Innovation with Integrating
Art & Technology

株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 松村直樹

<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC

Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者:代表取締役社長執行役員 谷輪 重之(93筑修経営)

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション!

新・教職課程演習

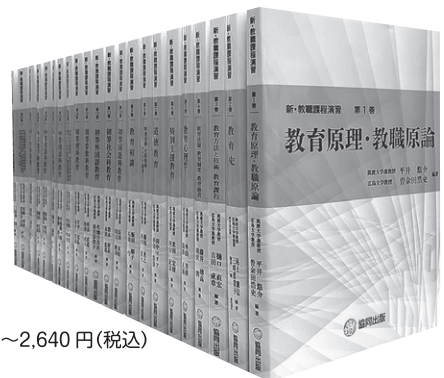
全 22 巻

筑波大学人間系教授 清水美恵
広島大学大学院教授 小山正孝

監修

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、
広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として
初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製
定価:1,650円~2,640円(税込)



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-5

TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>

「新・教職課程演習」全 22 巻

「本気」で結婚を目指す

筑波大学同窓会員の皆様

「成婚」をサポートいたします。

To achieve your happy marriage.

筑波大コース

通常登録料
~~33,000円(税込)~~

▶▶ 0円

受付時に
「『茗溪を見た』と
お申し付けください。

48年の実績で成婚までサポート

株式会社ブライダルは創業以来48年にわたり、大学同窓会員の皆さまをはじめ、たくさんの方々を成婚に導いてきました。少子化が叫ばれる昨今、当相談所は「幸せな結婚を実現する」という面で社会貢献を目指しています。

特に筑波大学の皆さま向けの「筑波大コース」は大変人気で、多くの同窓会員様にご利用いただいております。この「『茗溪』を見た」とお問い合わせ時にお申し付けいただいた方は、通常33,000円の登録料を【無料】にてご入会いただけます。本気で結婚を考えているお相手との出会いを求める方は、ぜひお問い合わせください。

定期的に「親御様無料説明会」を開催中です。

48年に渡るノウハウで
お子様との会話の秘訣を
お伝えしています。
HP・フリーコールより
お気軽にご相談ください。

1978年創業



あなたと未来をつくる
Bridal



0120-415-412

営業時間：平日 10:00～20:00 / 土・日・祝 10:00～18:00
定休日：月曜日(祝日は除く)・年末年始

ブライダル 結婚相談

検索

<https://www.bridal-vip.co.jp/>



東京本社：〒160-0023 東京都新宿区西新宿8丁目4-2 野村不動産西新宿ビル9F 名古屋本社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F



「安心」「安全」「快適」な
ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティ



FAAM



ESMO



No Man



Do RAY

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
ITソリューションをご提供いたします。

株式会社FYF

～ITソリューションでより良い未来を～

会社 HP

<https://www.fyf-h.com>

x (旧 Twitter)

@FYF_INC

本社 〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6
TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929

関西支店 〒530-0026 大阪府大阪市北区神山町 1-5 扇町公園ビル 6F
TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023

九州支店 〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモドビル 5F
TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453

東北支店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F
TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291

北海道支店 〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西 1 丁目 1-2
21 きのしたビル 9F
TEL 011-206-7482 FAX 011-206-7483



【会社 HP】

医療法人社団つるかめ会 ミラザ新宿つるかめクリニック

JR新宿駅東口徒歩1分

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-36-10 ミラザ新宿 7F



院長 岡本 高宏 (1982年卒)

健康診断してますか？
「年明けの健康チェック、今からご予約を」

ミラザ新宿つるかめクリニック
茗溪会様専用人間ドックお申し込みフォーム (2025)



大学生の安全行動志向にみる

大人になるための非認知能力

ウェルビーイングとエージェンシーが求められる時代に

河村茂雄 著 四六判, 176頁 定価2,200円 (本体2,000円+税10%)

非認知能力を育てる視点を、幼児から大人まで見通す

★非認知能力の基盤は子ども時代に育つ！

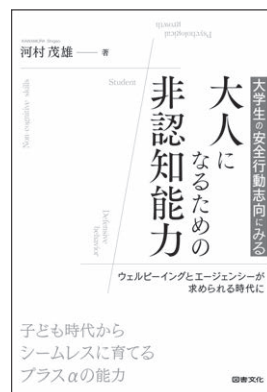
小・中学校教師、乳幼児～学齢期の子をもつ保護者へ——
教育・子育てで、子どもとどう向き合えばよいか？

★成長してからもリカバリーできる！

近年の大学生のリアルな姿をタイプ別に紹介。
不安を乗り越え、自ら考え行動できるよう支える足場かけとは？

★Z世代とのギャップに悩む管理職も必見！

若手社員の特徴を踏まえた関わり方と、職場適応・成長を支えるヒント。



おもな 目次

- | | | | |
|----|---------------------|----|-------------------|
| 序章 | 近年の大学生の姿から見えてくるもの | 3章 | 近年の大学生の支援のあり方 |
| 1章 | 大学生のタイプと非認知能力との関連 | 4章 | 職場における自律性支援 |
| 2章 | なぜ非認知能力の発達格差が生まれるのか | 5章 | 子ども時代に非認知能力を育てるには |

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です
- ◆文部科学省 SSH（3期目）認定校です

教員募集：

2026年4月採用 専任教員(理科・化学)
教員採用に関する最新情報は、下記QRコードによりご確認ください。



教員募集
リーフレット



茗溪学園ホームページ
(採用情報)



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp（見学等） entry@meikei.ac.jp（入試等）